

《販わい分野》

文化スポーツ振興部

2024年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	文化振興課	歳出目名	文化振興費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	◆誰もが文化芸術に親しめるよう、市民の文化芸術活動振興と環境づくりに取り組みます。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトにより、町田市全体の魅力向上、ブランド価値の向上を目指します。	他自治体の取り組み等	◆町田市が所有する工芸作品の中でも、とくにボヘミアングラスと東南アジア陶磁器のコレクションは、質、量ともに国内トップレベルです。◆市民が「文化芸術活動（創作や出演、習い事、体験活動への参加など）を行った割合」は29.5%で、全国（21.7%）よりも高い傾向にあります。一方、「ホールや劇場、美術館、博物館等で文化芸術を鑑賞する割合」は66.6%で、全国（67.3%）をやや下回っています。
所管事務	◆文化振興計画に関する事 ◆文化振興のための事業に関する事 ◆芸術家支援に関する事 ◆町田市民ホールに関する事 ◆鶴川緑の交流館に関する事 ◆町田市フォトサロンに関する事 ◆文化施設の整備に関する事 ◆成人式（二十祭まちだ）に関する事 ◆国際交流に関する事 ◆町田市文化・国際交流財団との連絡調整に関する事 ◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトに関する事		

2.2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画を策定するにあたっては、町田市の文化芸術をよく把握する必要があります。◆（仮称）国際工芸美術館の工事着手前に近隣の方々へ工事説明会を行うなど、引き続き丁寧に説明しながら整備工事を進める必要があります。◆パークミュージアムの実現に向けて、公園や美術館の魅力等を広く発信し、（仮称）国際工芸美術館の開館にあたっては、多くの市民、とりわけ子どもたちに工芸美術の魅力が伝わるような事業を実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み（1～2年）		中長期的な取り組み（3～5年）	
◆2025年度末に（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画の策定を完了します。◆引き続き、町田市立博物館主催の館外展示・体験講座を実施します。◆民間事業者の経験や技術を活用し、美術館と公園が密接に連携する、新たな運営体制を構築します。		◆（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画のもと、文化施策を推進します。◆国際版画美術館の改修工事着手前に（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟を完成させ、切れ目なく制作・体験の場を提供します。◆（仮称）国際工芸美術館の開館に向けて、学校連携事業を推進します。	
取組状況	個別取組 ○ 文化芸術団体や若者などの想いを幅広く集めて、今後の文化芸術のまちづくりを推進するため、22団体にヒアリングを実施しました。 ○ 市民に工芸の魅力を伝えるため、博物館主催の館外出張展示を2回と体験講座やブース出展等のイベントを61回実施しました。 △ （仮称）国際工芸美術館の整備工事の入札手続きを行い、落札者と仮契約を締結しましたが、本契約に至りませんでした。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標（達成時期）	成果指標の定義
文化芸術プロモーションのInstagramのフォロワー数	人	目標	950	1,050	1,300	1,500	1,700	文化芸術プロモーションのInstagramをフォローした人の数
		実績	1,013	1,197	1,388		（2028年度）	
工芸関連イベントの実施回数	回	目標	46	49	49	53	49	町田市立博物館が主催するアウトリーチ活動の一環である体験講座・ブース出展等イベントの実施回数
		実績	49	49	61		（2026年度）	
芹ヶ谷公園でのイベント実施時の満足度	%	目標	80	80	80	80	80	芹ヶ谷公園でのイベントに参加した人の満足度
		実績	100	99	99		（2026年度）	

②成果指標およびその他成果の説明

◆文化芸術プロモーションのInstagramアカウントにて、毎月平均15件投稿し、あわせてストーリーズの投稿も行ってきました。イベント開催時にアカウントを紹介したことなどにより、フォロワー数が1,197人から1,388人となり、191人増加しました。◆（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟において実施する工芸体験プログラムを見据えて、博物館主催で2024年度に市内各所で工芸に関する体験講座やブース出展等のイベントを61回実施しました。さらに、出張展示を2回実施しました。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトについて目指す将来像の実現に向けて、公園を活用した機運醸成イベントや中心市街地との回遊イベントを実施し、多くの方に満足いただきました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	174,349	175,333	185,470	10,137	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	8,555	7,262	8,424	1,162		保険料	0	0	0	0
	物件費	433,741	454,015	426,126	△ 27,889		国庫支出金	10,000	0	0	0
	うち委託料	412,350	431,437	402,350	△ 29,087		都支出金	40,672	52,640	6,296	△ 46,344
	維持補修費	12,777	17,743	13,939	△ 3,804		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	31,034	21,750	24,538	2,788		その他	5,050	4,625	7,217	2,592
	減価償却費	144,563	190,224	188,074	△ 2,150		行政収入 小計(a)	55,722	57,265	13,513	△ 43,752
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 757,847	△ 826,540	△ 867,728	△ 41,188
	賞与・退職手当引当金繰入額	17,105	24,740	43,094	18,354		金融収支差額(d)	△ 6,956	△ 9,726	△ 9,701	25
	行政費用 小計(b)	813,569	883,805	881,241	△ 2,564		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 764,803	△ 836,266	△ 877,429	△ 41,163
	特別費用(g)	0	0	0	0		特別収入(f)	0	0	2,825	2,825
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	2,825	2,825	当期収支差額(e)+(h)		△ 764,803	△ 836,266	△ 874,604	△ 38,338

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	町田市民ホール及び鶴川緑の交流館ホール等指定管理委託料 341,463千円 (仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画策定支援業務委託 5,252千円 など	一般財団法人町田市文化・国際交流財団補助金 19,000千円 町田市文化芸術活動団体等支援事業補助金 3,000千円 芹ヶ谷公園“芸術の杜”整備事業体験講座謝礼 1,529千円 町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会委員謝礼 327千円 など
主な増減理由	町田市民ホールの指定管理委託料が当初の提案額に基づき、4,536千円減少。(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画策定支援業務委託が委託内容の見直しにより2,114千円減少 など	文化芸術活動団体等支援事業補助金が新たに始まったことなどにより2,788千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支出金
決算額の主な内訳	鶴川緑の交流館 排煙窓改修工事 3,245千円 町田市民ホール 調光設備修繕 2,585千円 町田市民ホール 防火扉改修工事 1,299千円 鶴川緑の交流館 空調室外機改修工事 1,299千円 など	市町村総合交付金 6,296千円
主な増減理由	大きな修繕が少なかったため3,804千円減少。	町田市民ホールや鶴川緑の交流館において修繕を行ったことにより、市町村総合交付金が6,296千円増加。子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業補助金等がなくなったことにより52,640千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			136,874	122,890	△ 13,984
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金		0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債		120,720	105,037	△ 15,683
固定資産	事業用資産	有形固定資産	3,855,349	3,398,396	△ 456,953	固定負債	賞与引当金		16,154	17,853	1,699
		土地	644,088	398,424	△ 245,664		その他の流動負債		0	0	0
		建物(取得価額)	5,738,218	5,680,559	△ 57,659		負債の部合計		1,504,667	1,397,659	△ 107,008
		建物減価償却累計額	△ 2,526,957	△ 2,680,587	△ 153,630		純資産		3,407,305	3,134,653	△ 272,652
		工作物(取得価額)	0	0	0		地方債		1,221,545	1,116,508	△ 105,037
		工作物減価償却累計額	0	0	0		退職手当引当金		146,248	158,261	12,013
		無形固定資産	0	0	0		その他の固定負債		0	0	0
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産の部合計			3,407,305	3,134,653	△ 272,652
		土地	0	0	0		負債及び純資産の部合計		4,911,972	4,532,312	△ 379,660
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
		建設仮勘定	150,106	157,586	7,480						
		その他の固定資産	906,517	976,330	69,813						
資産の部合計			4,911,972	4,532,312	△ 379,660						

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建設仮勘定	その他の固定資産
決算額の主な内訳	鶴川緑の交流館 398,424千円	(仮称)国際工芸美術館 114,851千円 (仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟 42,735千円	博物館所蔵芸術文化資料 923,330千円 博物館資料収集基金 50,000千円 など
主な増減理由	本町田遺跡公園が土地の所管替えを行ったことにより245,664千円減少。	(仮称)国際工芸美術館整備工事に係るCM(コンストラクションマネジメント)業務設計反映業務委託により7,480千円増加。	作品受贈などにより69,813千円増加。

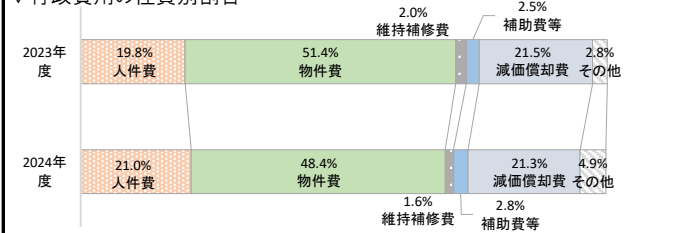
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	13,513	社会資本整備等投資活動収入	13,645	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	689,157	社会資本整備等投資活動支出	25,330	財務活動支出	120,720
行政サービス活動収支差額(a)	△ 675,644	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 11,685	財務活動収支差額(c)	△ 120,720
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 808,049
				一般財源充当調整額	808,049

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



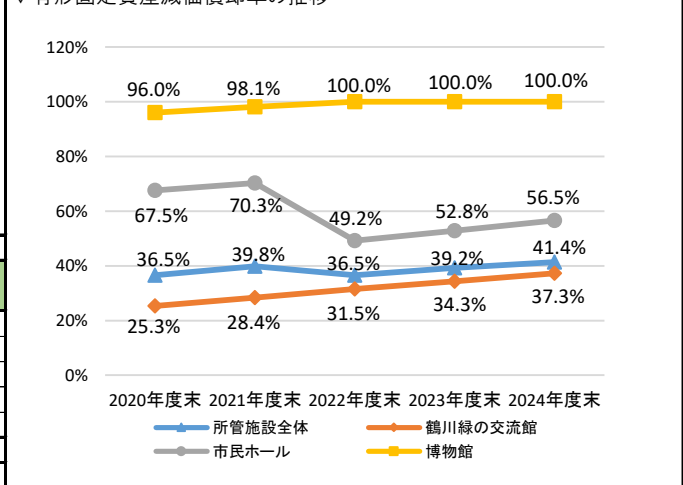
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
文化振興課管理業務	3.1			1.0		4.1	4.4
指定管理業務	1.7					1.7	1.7
文化振興業務	2.3			0.9		3.2	3.2
博物館業務	4.5			0.2	0.6	5.3	4.0
その他業務	7.4				0.7	8.1	9.2
2024年度 歳出目 合計	19.0	0.0	0.0	2.1	1.3	22.4	22.5
2023年度 歳出目 合計	17.0	0.0	0.0	4.0	1.5	22.5	

6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画策定に向け、文化芸術関係団体・事業者や若者にヒアリングを行い、文化芸術のまちづくりに向けた意見や想いを聴き取りました。また、計画策定懇談会を3回開催し、各委員からの意見を反映した計画骨子を取りまとめました。◆(仮称)国際工芸美術館整備工事に於けるCM業務の結果を設計図書に反映し工事入札を行ったほか、“芸術の杜”の実現に向けた取り組みを行い、機運醸成を図りました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆芦ヶ谷公園“芸術の杜”の整備において、施設の実設計業務が終了し業務量が減少したことなどから、その他業務の人員は1.1人減少しました。◆欠員に対し常勤職員が補充され、組織改正に向けた業務や巡回展初年度の準備にあたったため、博物館業務の人員数は1.3人増加しました。◆文化芸術活動団体等支援事業補助金を交付し、市内で活動するアーティストを支援しました。◆外国人住民の増加に伴う、市内外国人のニーズを把握しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画の実効性を高めるため、ヒアリング等に基づく現場の声を計画に反映していく必要があります。◆(仮称)国際工芸美術館の工事着手前に近隣の方々へ工事説明会を行うなど、引き続き丁寧に説明しながら整備工事を進める必要があります。◆“芸術の杜”の実現に向けて、公園や美術館の魅力等を広く発信し、(仮称)国際工芸美術館の開館にあたっては、多くの市民、とりわけ子どもたちに工芸美術の魅力が伝わるような事業を実施していく必要があります。◆外国人住民への支援のあり方を見直す必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆文化芸術のまちづくり計画に基づいた事業を展開するとともに、次期5カ年計画とも事業を連動させていきます。◆引き続き、町田市立博物館主催の出張展示や体験講座等のイベントを実施します。◆(仮称)国際工芸美術館の整備工事に着手します。	◆文化芸術のまちづくり計画に基づく事業展開を加速します。◆国際版画美術館の改修工事着手前に(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟を完成させ、切れ目なく制作・体験の場を提供します。◆(仮称)国際工芸美術館の開館に向け、学校連携事業を推進します。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	文化振興課
----	-----------	------	-------

歳出目名	文化振興費	特定事業名	博物館事業	事業類型	4:その他型
------	-------	-------	-------	------	--------

1.事業概要

博物館事業の目的は、価値のある資料を収集・保存し、綿密な調査・研究に基づいた魅力ある展覧会を企画・開催することや、教育普及活動をはじめ関連する諸事業を実施することにより、市民が文化・芸術に親しみ、好奇心を満足させながら教養を高めることができる機会を提供することです。

基本情報	根拠法令等	町田市立博物館条例			施設の名称	町田市立博物館
	有形固定資産減価償却率	2022年度	2023年度	2024年度	建設年月日	1973年3月31日
		100.0%	100.0%	100.0%		

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆工芸美術資料のインターネット上でのデータ公開に向けて、データの再確認と整理を行っていく必要があります。
- ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動が完了するまでは、引き続き博物館建物・設備の維持管理に努めます。
- ◆資料収集基金50,000千円のうち18,690千円の買戻しを行い、博物館廃止までに計画的に現金化する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)			中長期的な取り組み(3～5年)		
◆インターネット上でのデータ公開に向けて、工芸美術資料の収蔵品管理データの再確認と整理を行います。			◆工芸美術資料について、所蔵作品目録の代替として、インターネット上でのデータ公開を実施します。		
◆資料収集基金からの資料買戻しを計画的に進めて、(仮称)国際工芸美術館の開館準備を行います。			◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動完了後、建物を解体し、土地を返還します。		

取組状況	個別取組	○ 工芸美術資料について、2023年度に寄贈を受けた作品を含め、203件の収蔵品管理データへの反映を完了しました。
		○ 資料収集基金50,000千円のうち18,690千円の買戻しを行い、全ての資料買戻しが完了しました。
		○ 老朽化した博物館建物・設備については、収蔵品の保管に必要な機能を維持し、適切な管理に努めました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設の修繕費	円	目標	-	-	-	-	-	修繕費の年間合計額
		実績	2,086,370	612,040	378,400			
施設の光熱水費	円	目標	-	-	-	-	-	光熱水費の年間合計額
		実績	2,762,532	2,440,494	3,330,103			

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆老朽化による故障が比較的少なく、2024年度は修繕費が減少しました。
- ◆水道料金は減額となりましたが、電気料金は値上げの影響から増額となり、2024年度は光熱水費が増加しました。
- ◆滋賀県立陶芸の森で「躍動するアジア陶磁一町田市立博物館所蔵の名品から」が開催されたほか、岡山市立オリエント美術館や富山市ガラス美術館に博物館の所蔵作品を貸し出しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	32,733	31,283	45,417	14,134	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	37,341	38,012	45,215	7,203		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	19,178	20,425	26,024	5,599		都支出金	0	0	0	0
	維持補修費	2,086	612	378	△ 234		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	232	240	260	20		その他	88	28	45	17
	減価償却費	2,780	0	0	0		行政収入 小計(a)	88	28	45	17
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 86,550	△ 72,927	△ 112,133	△ 39,206
	賞与・退職手当引当金繰入額	11,466	2,808	20,908	18,100		金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	86,638	72,955	112,178	39,223		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 86,550	△ 72,927	△ 112,133	△ 39,206
特別費用 (g)		0	0	0	0	特別収入 (f)		0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)		△ 86,550	△ 72,927	△ 112,133	△ 39,206

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	総合管理委託料 14,646千円 用地借上料 12,900千円 資料保存箱製作委託料 5,589千円 など	建具他修繕 245千円 消板撤去等修繕 55千円 シャッター修繕 48千円 など
主な増減理由	2024年度に長期継続契約締結した総合管理委託料が人件費増加の影響を受け732千円増加。資料保存箱製作委託料が、2023年度に多数の寄贈を受けた収蔵品保管のため5,289千円増加。	大きな修繕が少なかったため、234千円減少。
勘定科目	補助費等	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	博物館資料収集委員会委員謝礼 130千円 所蔵作品の修復計画協力謝礼 60千円 寄贈資料評価謝礼 40千円 など	物品売払収入 44千円 古紙売払代 1千円
主な増減理由	2023年度はガラスの寄贈申出があり計2名の専門家に評価を依頼したが、2024年度はガラスと陶磁器の寄贈申し出があり、計4名の専門家に評価を依頼したため、寄贈資料評価謝礼が20千円増加。	図録販売数が17千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
延床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	1,413	79,390	27,759	行政費用が増加したことにより、2023年度に比べて27,759円増加しました。
		2023	1,413	51,631	△ 9,684	
		2022	1,413	61,315	9,905	
		2024				
		2023				
		2022				

④貸借対照表

(単位:千円)

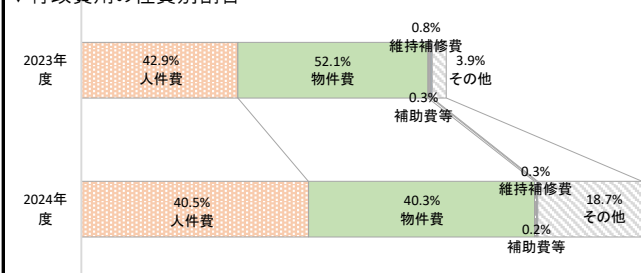
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		2,615	4,153	1,538	
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0	
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金		2,615	4,153	1,538	
		土地	0	0	0	その他の流動負債		0	0	0	
		建物(取得価額)	139,000	139,000	0	固定負債		24,084	37,688	13,604	
		建物減価償却累計額	△ 139,000	△ 139,000	0	地方債		0	0	0	
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金		24,084	37,688	13,604	
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		26,699	41,841	15,142	
		有形固定資産	0	0	0	純資産		876,701	931,489	54,788	
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
		無形固定資産	0	0	0						
		建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産		903,400	973,330	69,930	純資産の部合計		876,701	931,489	54,788		
資産の部合計			903,400	973,330	69,930	負債及び純資産の部合計		903,400	973,330	69,930	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	市立博物館建物 139,000千円	所蔵芸術文化資料 923,330千円 資料収集基金 50,000千円	特になし
主な増減理由	増減なし	作品受贈により69,930千円増加。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



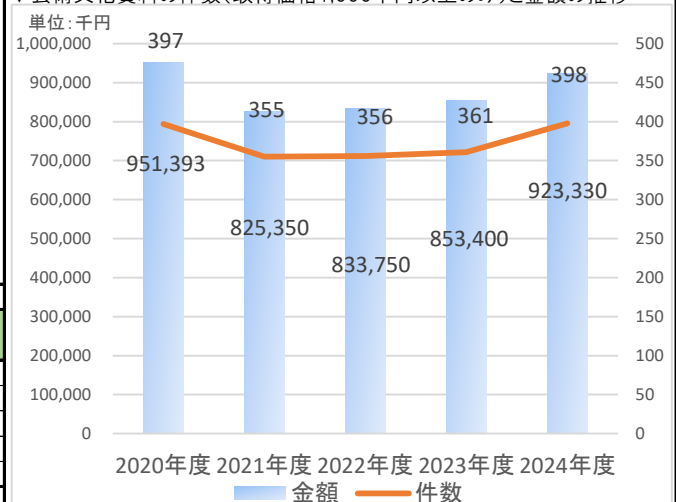
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
						2024 合計	2023 合計
博物館管理事務	3.8			0.2	0.6	4.6	3.8
博物館展示事業	0.3					0.3	0.1
博物館普及事業	0.4					0.4	0.3
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	4.5	0.0	0.0	0.2	0.6	5.3	4.2
2023年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	0.5	0.7	4.2	

6.個別分析

▽芸術文化資料の件数(取得価格1,000千円以上のみ)と金額の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆工芸美術資料のうち、2023年度に新たに増えた受贈分を含む203件の収蔵品管理データへの反映を完了しました。
- ◆資料収集基金から18,690千円の買戻しを行いました。
- ◆工芸美術資料確認調査が終了し、博物館建物・設備の維持管理経費が主な費用となっています。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆老朽化による故障が比較的少なく、2024年度は修繕費が減少しました。
- ◆電気料金値上げに伴い、光熱水費が増加しました。
- ◆貴重な工芸美術資料を適切に活用するため、資料の修復計画に基づき修復方法にかかる調査を実施しました。
- ◆欠員に対し常勤職員が補充されたことに伴い、人員は1.1人増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆(仮称)国際工芸美術館開館前年度に開設予定のホームページ上での公開に向けて、工芸美術資料のデータの再確認と整理を行っていく必要があります。
- ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動が完了するまでは、引き続き博物館建物・設備の維持管理に努めます。
- ◆市所有の工芸美術品をPRするため、引き続き他の美術館への積極的な作品貸出を行います。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆2028年度に開設予定の工芸美術館ホームページ上でのデータ公開に向けて、工芸美術資料の収蔵品管理データの再確認と整理を行います。	◆工芸美術資料について、所蔵作品目録の代替として、インターネット上でのデータ公開を実施します。 ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動完了後、建物を解体し、土地を返還します。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	文化振興課
----	-----------	------	-------

歳出目名	文化振興費	特定事業名	フォトサロン事業	事業類型	1:施設運営受益者負担型
------	-------	-------	----------	------	--------------

1.事業概要

事業目的 市民に写真その他の文化芸術に関する活動の場を提供し、文化芸術の振興に寄与するため、展示会の開催や貸出施設等の利用に関する業務を行います。

基本情報	根拠法令等	町田市フォトサロン条例、町田市フォトサロン条例施行規則				
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市フォトサロン
	利用料金収入 (単位:千円)	722	725	517	建設年月日	1975年4月1日
	受益者負担比率	4.9%	5.4%	3.5%		
					有形固定資産減価償却率	2022年度 94.0% 2023年度 96.0% 2024年度 98.0%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆フォトサロンの入場者数は減少しましたが、町田薬師池公園四季彩の杜全体の来場者数はほぼ横ばいで推移していることから、引き続き園内各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信が必要です。
- ◆園外での事業を拡充することなど、展示以外の写真の魅力を伝えたり、愛好家の裾野を広げ、展示室の利用につなげる取り組みが必要です。
- ◆建物が築40年を超えたため、今後、フォトサロンのあり方の検討が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆SNSや町田薬師池公園四季彩の杜ホームページを活用して、引き続き施設の魅力を伝えるための情報発信を行います。 ◆園外で講座や撮影会等を積極的に開催します。		◆「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画」の目指す将来像に沿った施設の運営を進めることで、園全体の魅力を向上させる一役を担うとともに、フォトサロンの将来のあり方について検討を行います。	

取組状況	個別取組	○ 企画展や講座等の開催情報をInstagramで66回、Xで157回投稿し、施設の魅力を伝えるための情報発信を行いました。
		○ 野津田公園でばら撮影会、ダリア園でダリア撮影会を開催し、撮影した作品の展示会をフォトサロンで開催しました。
		○ 町田薬師池公園四季彩の杜各施設と連携してスタンプラリーを3回開催する等、園全体の魅力を高める事業を実施しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	37,000	37,000	37,000	37,000	37,000	町田市フォトサロンの入場者数
		実績	36,071	33,123	40,502		(2026年度)	
企画事業数	回	目標	18	18	18	18	18	指定管理者が企画・立案した写真等に関する事業数
		実績	26	27	30		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆町田薬師池公園四季彩の杜各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信を行いました。薬師池公園の来園者に呼びかけ、展示の鑑賞を促す等、入場者数の増加に取り組みました。入場者数は、2023年度と比べ7,379人増加(+22.3%)し、目標を達成しました。
- ◆企画事業数は、2023年度と比べ3回増加(+11.1%)し、目標を上回りました。展示24事業のほか、展示室の利用につなげる取り組みとして、園外での撮影会を3事業、デジタル一眼カメラ講座などの講座を3事業実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	2,140	2,162	2,809	647	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	10,675	10,675	11,025	350		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	10,675	10,675	11,025	350		都支出金	0	0	0	0
	維持補修費	2,024	0	0	0		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	0	0	0	0
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 15,031	△ 13,226	△ 14,839	△ 1,613
	賞与・退職手当引当金繰入額	192	389	1,005	616		金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	15,031	13,226	14,839	1,613		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 15,031	△ 13,226	△ 14,839	△ 1,613
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	1,158	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	1,158	0	0	0		当期収支差額 (e)+(h)	△ 13,873	△ 13,226	△ 14,839	△ 1,613

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	
決算額の主な内訳	指定管理委託料 11,025千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	最低賃金の引上げや光熱費の高騰で指定管理委託料が増加したことにより、350千円の増加。	主な増減理由	
勘定科目		勘定科目	
決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由		主な増減理由	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
施設利用者1人あたりコスト	人	2024	40,502	366	△ 33	入場者数が増加したことにより、33円減少(△8.3%)しました。
		2023	33,123	399	△ 18	
		2022	36,071	417	△ 78	
開館1日あたりコスト	日	2024	302	49,136	5,772	行政費用が増加したことにより、5,772円増加(+13.3%)しました。
		2023	305	43,364	△ 5,280	
		2022	309	48,644	△ 5,799	

④貸借対照表

(単位:千円)

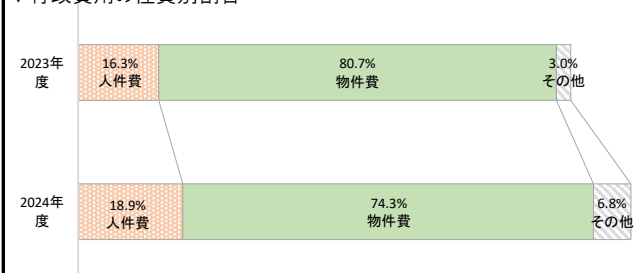
勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				207	277	70	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金				0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債				0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	賞与引当金				207	277	70
		土地			0	0	0	その他の流動負債				0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0	固定負債				2,047	2,561	514
		建物減価償却累計額			0	0	0	地方債				0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金				2,047	2,561	514
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債				0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	負債の部合計				2,254	2,838	584
		有形固定資産			0	0	0	純資産				△ 2,254	△ 2,838	△ 584
		土地			0	0	0							
		工作物(取得価額)			0	0	0							
	建設仮勘定	工作物減価償却累計額			0	0	0							
		無形固定資産			0	0	0							
		その他の固定資産			0	0	0	純資産の部合計				△ 2,254	△ 2,838	△ 584
資産の部合計						0	負債及び純資産の部合計				0	0	0	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)		
決算額の主な内訳	フォトサロンの建物は、公園緑地課の薬師池四季彩の杜事業に計上しています。	特になし	特になし
主な増減理由			

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



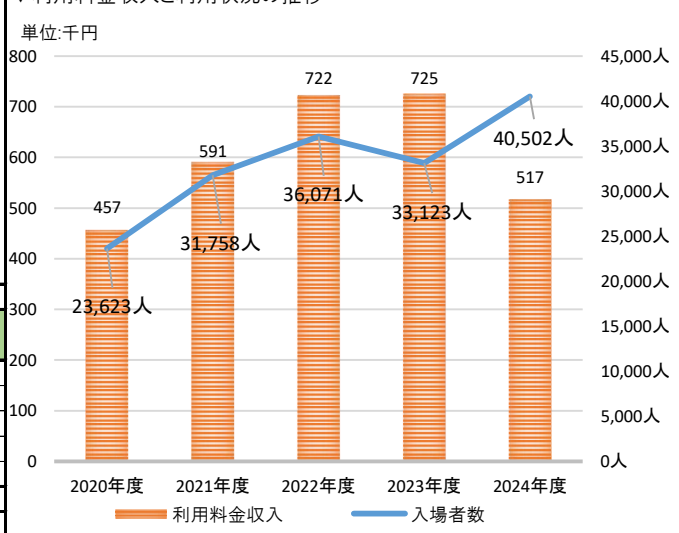
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024	2023
						合計	合計
フォトサロン管理事務	0.3					0.3	0.2
フォトサロン選定替事務						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2
2023年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆町田薬師池公園四季彩の杜内の各施設と連携してスタンプラリーを3回実施する等、園全体の魅力を向上させる取り組みを積極的に行うとともに、薬師池公園来園者へ呼びかけを行った結果、フォトサロンの入場者数は、2023年度と比べ7,379人増加(+22.3%)しました。これは、四季彩の杜全体の来園者数の増加率(+3.9%)を上回っています。
◆季節の草花を題材に撮影会や企画展のほか、デジタル一眼カメラ講座など写真愛好家の裾野を広げる講座などの企画事業を30事業実施し、2023年度と比べ3回増加(+11.1%)しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆行政費用については、最低賃金の引上げや光熱費の高騰により、2023年度と比べ物件費(指定管理委託料)が350千円増加(+3.3%)しました。
◆指定管理者による企画事業が増加した一方で、施設の貸出利用が減少したため、利用料金収入は2023年度と比べて208千円減少(△28.7%)しました。
◆フォトサロンのあり方について庁内で定期的に検討会を開催したため、事業に関わる人員は2023年度と比べて0.1人増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆フォトサロンを含め、町田薬師池公園四季彩の杜全体の来園者数が増加していることから、引き続き、園内各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信が必要です。
◆施設の貸出利用を増やし、利用料金収入の増加を図るため、引き続き、写真の魅力を伝えたり、愛好家の裾野を広げ、展示室の利用につなげる取り組みが必要です。
◆建物が築50年を迎え、老朽化が進んでいるため、今後、フォトサロンのあり方の検討が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆SNSや町田薬師池公園四季彩の杜ホームページを活用して、引き続き施設の魅力を伝えるための情報発信を行います。◆引き続き、撮影会や講座等を開催し、新規の展示室利用者の獲得に取り組みます。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行います。	◆「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画」の目指す将来像に沿った施設の運営を進めることで、園全体の魅力を向上させる一役を担うとともに、フォトサロンの将来のあり方について決定します。

2024年度 事業別行政評価シート

部名		文化スポーツ振興部	主管課名		文化振興課
歳出目名	文化振興費	特定事業名	市民ホール事業	事業類型	1:施設運営受益者負担型

1.事業概要

事業目的	市民の文化の向上と福祉の増進に寄与するため、文化の提供事業や文化活動の支援および市民参加型事業を実施するとともに、市民ホールの貸出施設の利用に関する業務を行います。					
基本情報	根拠法令等 町田市民ホール条例、町田市民ホール条例施行規則					
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市民ホール
	利用料金収入 (単位:千円)	17,638	108,785	109,504	建設年月日	1977年2月24日
	受益者負担比率	9.6%	26.8%	26.7%		
					有形固定資産減価償却率	2022年度 49.2% 2023年度 52.8% 2024年度 56.5%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆引き続き事業ジャンルの選定の工夫や、効果的な広報手段の検討を行うなど、入場者数及び施設利用率向上に向けた取り組みが必要です。	
◆建物が建設されて約50年が経過したため、市民ホールの今後のあり方について検討していく必要があります。	

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆利用者数向上に向けた取り組みとして、新しいジャンルやテーマを扱った事業について、検討・実施していきます。◆外郭団体と連携し、文化団体が施設を利用しやすい仕組みを構築することで、利用率の向上を図ります。◆個別の事業に有効な広報手段を活用し、集客力の向上を図ります。◆市内の文化施設のあり方検討のため、現状を把握していきます。		◆2027年度から新たな指定期間となる指定管理者の選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行います。	
取組状況	個別取組	○ 新たに若者に人気のあるアーティストのコンサートを2事業実施するなど幅広い年齢層向けの文化事業を実施しました。	
		○ 施設ホームページをリニューアルし、施設入口にデジタルサイネージを新たに設置するなど、施設の周知と事業の広報を行いました。	
		○ 施設利用率の向上の取り組みとして、会議室にWi-fiを設置し、施設の利用環境を整備しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	4,480	59,000	59,000	59,000	59,000	市民ホールで実施される事業の入場者数
		実績	7,275	59,987	51,190		(2026年度)	
施設利用率(平均)	%	目標	66	68	70	72	74	貸出施設の利用率
		実績	49	54	57		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆有名アーティストによるコンサート等の事業と市民参加型事業を合わせて43事業実施しましたが、2023年度と比べて12事業減少したため、入場者数は8,797人減少(△14.7%)しました。	
◆4階にあるギャラリーの利用率が33.3%と2023年度から5.9ポイント低下しましたが、会議室へのWi-fi設置など利用環境を整備し、会議室の利用率は59.1%と7.5ポイント向上したため、利用率全体では3ポイント上昇しました。	

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	3,912	6,177	6,026	△ 151	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	156,627	184,091	180,110	△ 3,981		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	156,627	183,449	178,603	△ 4,846		都支出金	0	0	1,995	1,995
	維持補修費	0	2,853	5,905	3,052		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	50,834	100,893	100,893	0		行政収入 小計(a)	0	0	1,995	1,995
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 211,725	△ 297,175	△ 291,712	5,463
	賞与・退職手当引当金繰入額	352	3,161	773	△ 2,388		金融収支差額 (d)	△ 167	△ 3,574	△ 4,190	△ 616
	行政費用 小計 (b)	211,725	297,175	293,707	△ 3,468		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 211,892	△ 300,749	△ 295,902	4,847
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	2,596	0	1,766	1,766
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	2,596	0	1,766	1,766		当期収支差額 (e)+(h)	△ 209,296	△ 300,749	△ 294,136	6,613

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理委託料 178,603千円 備品購入費 1,507千円	決算額の主な内訳	調光設備修繕 2,585千円 防火扉改修工事 1,299千円 スプリンクラーヘッド増設及び排煙口改修工事 1,077千円 など
主な増減理由	当初の提案額に基づき、指定管理委託料が4,846千円減少。大型プリンター及び舞台スピーカーの購入により、備品購入費が865千円増加。	主な増減理由	緊急の修繕が発生したことにより、3,052千円増加。
勘定科目	減価償却費	勘定科目	都支出金
決算額の主な内訳	減価償却費(建物) 100,777千円 減価償却費(備品) 116千円	決算額の主な内訳	市町村総合交付金 1,995千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	施設修繕を行ったことにより、市町村総合交付金が1,995千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
入場者1人あたりコスト	人	2024	51,190	5,738	784	入場者数が8,797人減少(△14.7%)したため、784円増加(+15.8%)しました。
		2023	59,987	4,954	△ 24,149	
		2022	7,275	29,103	18,005	
開館1日あたりコスト	日	2024	333	882,003	△ 5,087	開館日数は2日減少(△0.6%)しましたが、行政費用が減少したため、5,087円減少(△0.6%)しました。
		2023	335	887,090	△ 2,962,455	
		2022	55	3,849,545	2,575,621	

④貸借対照表

(単位:千円)

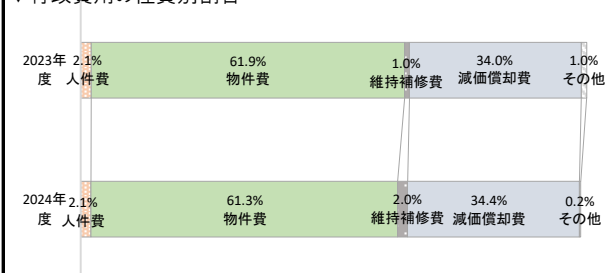
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			18,359	2,039	△ 16,320
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			17,768	1,440	△ 16,328
固定資産	事業用資産	有形固定資産	1,296,684	1,197,673	△ 99,011	賞与引当金			591	599	8
		土地	0	0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)	2,696,795	2,698,561	1,766	固定負債			438,414	436,683	△ 1,731
		建物減価償却累計額	△ 1,400,111	△ 1,500,888	△ 100,777	地方債			432,564	431,124	△ 1,440
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金			5,850	5,559	△ 291
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計			456,773	438,722	△ 18,051
		有形固定資産	0	0	0	純資産			840,028	758,951	△ 81,077
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
建設仮勘定	工作物減価償却累計額	0	0	0							
	無形固定資産	0	0	0							
	建設仮勘定	0	0	0							
その他の固定資産			117	0	△ 117	純資産の部合計			840,028	758,951	△ 81,077
資産の部合計			1,296,801	1,197,673	△ 99,128	負債及び純資産の部合計			1,296,801	1,197,673	△ 99,128

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	地方債(流動負債)
決算額の主な内訳	建物本体 2,698,561千円	照明用機器 0千円	2025年度償還額 1,440千円
主な増減理由	LAN配線設置、会議室Wi-fi設置、楽屋前ブラインドカーテン入替などの寄附受入により、1,766千円増加。	減価償却により、117千円減少。	2014年度の市民ホール改修に伴い借入れを行った地方債の償還が2024年度で終了したため、16,328千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



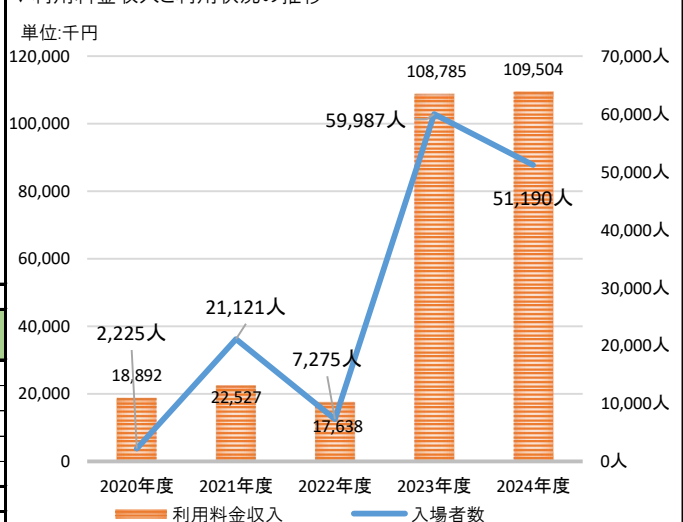
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計		2023 合計	
						2024	2023	2024	2023
市民ホール管理事務	0.7					0.7	0.7	0.7	0.7
市民ホール指定管理者選定事務						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	0.7
2023年度 特定事業 合計	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	0.7

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆2024年度は43事業を実施しましたが、2023年度と比べて12事業減少したため、入場者数は8,797人減少(△14.7%)しました。
- ◆会議室のWi-fi設置など利用環境を整備し、会議室の利用率が向上した結果、施設全体の利用率は3ポイント上昇しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆当初の提案額に基づき、指定管理委託料は、4,846千円減少(△2.6%)しました。
- ◆有名アーティストによるコンサート等の事業が好調だったことや、物価高騰の影響でチケット単価が全体的に上昇したことから、入場料収入は2023年度と比べて約1,500千円増加(+2.9%)しました。また、施設全体の利用率は3ポイント上昇しましたが、施設利用料金収入は約1,000千円減少(△1.9%)しました。結果、入場料収入等を合わせた利用料金収入全体では719千円増加(+0.7%)しました。
- ◆緊急の修繕が複数発生したため、施設修繕料は2023年度と比べ3,052千円増加(+107.0%)しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き事業ジャンルの選定の工夫を行うとともに、主催・共催事業数を増やすなど、入場者数の増加に向けた取り組みが必要です。
- ◆新しい利用方法を積極的に提案するなど、利用率の低い諸室の利用率の向上に向けた取り組みが必要です。
- ◆建物が建設されて約50年が経過したため、市民ホールの今後のあり方について検討していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆過去に人気のあった公演等を開催するとともに、新しいジャンルやアーティストの公演を開催し、新規客層を開拓することで入場者数の向上を図ります。 ◆利用率の低い諸室の利用率の向上に向けて、新しい利用方法を検討・実施していきます。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行います。	◆市民ホールも含めた市内の文化施設のあり方について、2025年度策定予定の(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画を踏まえて検討を進めます。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費	特定事業名	鶴川緑の交流館事業
事業類型	1:施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	市民の芸術文化の創造活動および地域的な共同活動その他の市民活動の推進を図り、もって魅力ある地域社会づくりに寄与するため、ホール等の施設および附属設備の貸し出しや市民の芸術文化の向上に資する事業を行います。						
基本情報	根拠法令等 町田市鶴川緑の交流館条例、町田市鶴川緑の交流館条例施行規則						
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市鶴川緑の交流館	
	利用料金収入 (単位:千円)	44,560	38,072	49,614	建設年月日	2012年9月27日	
	受益者負担比率	14.8%	12.7%	15.9%		2022年度	2023年度
					有形固定資産減価償却率	31.5%	34.3%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き事業ジャンルの選定の工夫や、効果的な広報手段の検討を行うなど、入場者数及び施設利用率の向上に向けた取組が必要です。
- ◆開館10年が経過し、施設設備の老朽化が進行しているため、計画的な修繕を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆利用者数の向上に向けた取組としてカフェや図書館とのコラボ事業に加え新しいジャンルやテーマを扱った事業、体験型・参加型の事業について検討・実施していきます。◆外郭団体と連携し文化団体が施設を利用しやすくする仕組みを構築することで利用率の向上を図ります。◆SNSやプレスリリースの活用等個別の事業に有効な広報手段を活用し集客力の向上を図ります。		◆経年劣化によって発生する設備修繕について指定管理者や関係部署と連携し、状況把握や優先順位の判断等を計画的に行います。◆2027年度から新たな指定期間となる指定管理者の選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行います。	
取組状況	個別取組	○ 鶴川駅前図書館との共催で各種文化講座や、カフェと連携したサロンコンサートを実施しました。	
	○	○ 怪談などの新しいジャンルの事業や、市がホストタウンとなっているインドネシアに関する体験型・参加型事業を開催しました。	
	○	○ 主催・共催事業について、SNS(X)で163回投稿し、プレスリリースを3回行うなど、広報を行いました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	12,910	16,100	16,100	16,100	16,100	鶴川緑の交流館で実施される事業の入場者数
		実績	6,919	14,531	16,453		(2026年度)	
施設利用率(平均)	%	目標	66	68	70	72	74	貸出施設(ホール、会議室等)の利用率
		実績	69	63	64		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆有名アーティストによるコンサート等の事業と市民参加型事業を合わせて全70事業実施し、入場者数は2023年度と比較して1,922人増加(+13.2%)しました。◆4月からオンラインでホールの予約申し込みを開始し、ホールの利用率は84.7%と2023年度から1.4ポイント向上しました。多目的室の利用率も向上しましたが、夏季の空調機故障の影響を受けた会議室の利用率が低下したため、全体の施設利用率は微増にとどまりました。◆施設ホームページをリニューアルし、施設入口にデジタルサイネージを新たに設置するなど、施設の周知と事業の広報に取り組みました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	3,966	7,567	6,179	△ 1,388	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	158,914	163,822	162,860	△ 962		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	158,914	162,550	162,860	310		都支出金	0	0	4,301	4,301
	維持補修費	3,372	7,520	7,656	136		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	4,500	4,500	4,500	0
	減価償却費	88,438	86,820	87,181	361		行政収入 小計(a)	4,500	4,500	8,801	4,301
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 250,546	△ 265,869	△ 255,689	10,180
	賞与・退職手当引当金繰入額	356	4,640	614	△ 4,026		金融収支差額(d)	△ 6,703	△ 6,074	△ 5,442	632
	行政費用 小計(b)	255,046	270,369	264,490	△ 5,879		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 257,249	△ 271,943	△ 261,131	10,812
	特別費用(g)	0	0	0	0		特別収入(f)	1,589	0	2,048	2,048
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	1,589	0	2,048	2,048		当期収支差額(e)+(h)	△ 255,660	△ 271,943	△ 259,083	12,860

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理委託料 162,860千円	決算額の主な内訳	排煙窓改修工事 3,245千円 空調室外機改修工事 1,299千円 制御非常照明用整流器部品交換修繕 1,210千円 など
主な増減理由	光熱水費の高騰で指定管理委託料が増加したことにより、310千円増加。 備品購入がなかったため、1,272千円減少。	主な増減理由	緊急の修繕が発生したことにより、136千円増加。
勘定科目	都支出金	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	市町村総合交付金 4,301千円	決算額の主な内訳	広告掲載料(和光大学ポブリホール鶴川命名権料) 4,500千円
主な増減理由	施設修繕を行ったことにより、市町村総合交付金が4,301千円増加。	主な増減理由	増減なし

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
入場者1人あたりコスト	人	2024	16,453	16,075	△ 2,531	入場者数が1,922人増加(+13.2%)したことにより、2,531円減少(△13.6%)しました。
		2023	14,531	18,606	△ 18,256	
		2022	6,919	36,862	2,638	
開館1日あたりコスト	日	2024	337	784,837	△ 12,712	開館日数は2日減少しましたが、行政費用が減少したことにより、12,712円減少(△1.6%)しました。
		2023	339	797,549	42,975	
		2022	338	754,574	△ 21,407	

④貸借対照表

(単位:千円)

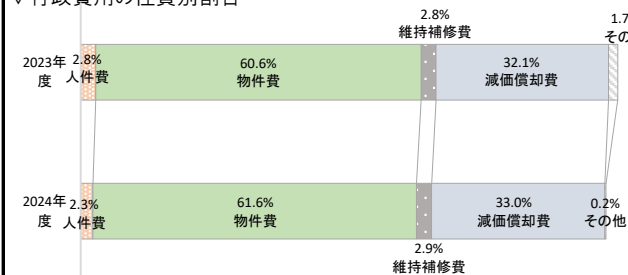
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			102,963	103,489	526
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			102,239	102,875	636
固定資産	事業用資産	有形固定資産	2,286,845	2,200,723	△ 86,122	賞与引当金		724	614	△ 110	
		土地	398,424	398,424	0	その他の流動負債		0	0	0	0
		建物(取得価額)	2,841,939	2,842,998	1,059	固定負債		790,908	686,568	△ 104,340	
		建物減価償却累計額	△ 953,518	△ 1,040,699	△ 87,181	地方債		783,742	680,867	△ 102,875	
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金		7,166	5,701	△ 1,465	
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		893,871	790,057	△ 103,814	
		有形固定資産	0	0	0	純資産		1,392,974	1,410,666	17,692	
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
		無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定			0	0	0						
その他の固定資産			0	0	0	純資産の部合計		1,392,974	1,410,666	17,692	
資産の部合計			2,286,845	2,200,723	△ 86,122	負債及び純資産の部合計			2,286,845	2,200,723	△ 86,122

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	地方債(固定負債)	
決算額の主な内訳	建物本体 2,842,998千円	建設のための借入 680,867千円	特になし
主な増減理由	メッシュフェンス・門扉設置、ホール映像機器増設の寄附受入により、1,059千円増加。	2025年度償還分を流動負債に振替したことにより、102,875千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



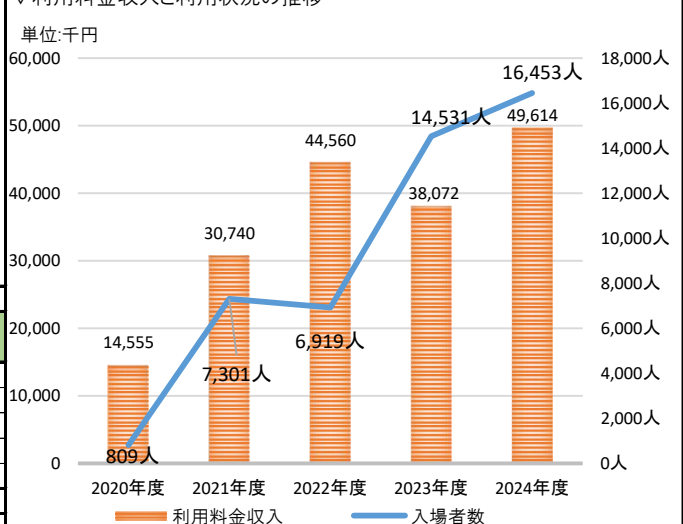
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024	2023
						合計	合計
鶴川緑の交流館管理事務	0.7					0.7	0.9
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.9
2023年度 特定事業 合計	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆2024年度は70事業実施し、2023年度と比較して11事業増加したことから、入場者数も1,922人増加(+13.2%)しました。
- ◆ホールの予約申し込みをオンライン化したほか、施設内の諸室の様子が分かるチラシの作成やホームページのリニューアル等、利用率向上の取り組みを行いました。夏季の空調機故障の影響もあり、利用率全体では微増にとどまりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆指定管理委託料は、光熱水費の高騰により、2023年度から310千円増額(+0.2%)しました。
- ◆2023年度に行った駐輪場の整備に係る事務が終了したため、事業に関わる人員は0.2人減少しました。
- ◆維持補修費は、緊急修繕が複数発生したため、2023年度と比較し136千円増加(+1.8%)しました。
- ◆有名アーティストによるコンサート等の主催事業が好調だったことから、入場料収入は約8,000千円増加(+101%)しました。また、2024年1月に整備した駐輪場の利用料金収入が2023年度から約4,000千円増加しました。結果、利用料金収入全体では11,542千円増加(+30.3%)しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き事業ジャンルの選定を工夫する等、入場者数の向上に向けた取り組みが必要です。
- ◆諸室の特性に応じた利用方法を積極的に提案していく等、利用率の低い諸室の利用率の向上に向けた取り組みが必要です。
- ◆開館12年が経過し、施設設備の経年劣化が進行しているため、計画的な修繕を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆過去に人気のあった公演等を開催するとともに、新しいジャンルやアーティストの公演を開催し新規客層を開拓することで入場者数の増加を図ります。 ◆諸室の特性に応じた利用方法を積極的に提案する等、利用率の低い諸室の利用率向上の取り組みを検討・実施します。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定に向けて課題整理や募集方法を検討します。	◆経年劣化によって発生する設備修繕について指定管理者や関係部署と連携し、状況把握や優先順位の判断等を計画的に行います。

2024年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	スポーツをする場所や機会を提供するとともに、スポーツ支援活動を支えることで、市民の健康で明るく豊かな生活を実現します。また、身近な生活の中でトップレベルのスポーツ等に親しむことができる環境を整え、活力ある社会を構築します。	他自治体の 取り組み等	◆町田市民のスポーツ実施率は49.2%(2024年度)で、東京都民のスポーツ実施率63.3%(2024年11月)を下回っています。◆町田市立陸上競技場は、都内で2か所しかない、J1リーグライセンスを取得している希少なスタジアムのうちの1つです。◆「まちだサポーターズ」は、スポーツ祭東京2013(東京国体)を契機に発足し、活動を継続している、全国でも例の少ないスポーツボランティア団体です。
所管事務	◆スポーツ施設の管理や整備に関すること ◆学校施設等のスポーツ開放に関すること ◆ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア、ASVベスカドーラ町田)の支援に関すること ◆地域スポーツクラブの整備や支援に関すること ◆スポーツ大会の開催支援・スポーツに関する広報等のスポーツ振興に関すること		

2.2023年度末の総括と2024年度末の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆スポーツ施設で行うスポーツ機会だけではなく、忙しい働き盛り・子育て世代の方でも取り組みやすい、時間や場所を問わないスポーツ機会の提供をしていく必要があります。◆ホームゲーム年間観戦者数をさらに増やすためには、より一層認知度を向上していく必要があります。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」の活動延べ人数は3,384人で、2022年度と比べて784人増加しています。引き続き、スポーツへの関心やボランティア機運・モチベーションを維持していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆出張形式のスポーツ教室実施など、忙しい世代でもスポーツに取り組めるきっかけづくりをしていきます。◆各ホームタウンチームと協力し、試合情報や活動紹介等のPR活動を継続していきます。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」が、継続して活動を広げられるように支援していきます。		◆「町田市スポーツ推進計画19-28後期アクションプラン(2024年度~2028年度)」を実行し、多様なスポーツ機会を提供することで、市民のスポーツ実施率及び「する」「みる」「支える」でスポーツに関わる市民の割合向上を目指します。	
取組状況	個別取組	取組状況	個別取組
○	○ 新たにイベントへの出張形式のスポーツ教室を1回実施し、580人の方に参加いただきました。		
	○ ホームタウンチーム協力のもと小学生招待を4回実施し、市内でスポーツ観戦をした市民の割合が2023年度から1.3ポイント増加しました。		
	○ 広報まちだ等で「まちだサポーターズ」の取り組みの周知を4回実施しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
週1回以上スポーツをする市民の割合	%	目標	-	-	-	-	70.0	週1回以上スポーツをする市民の割合 ※計画最終年度である2028年度までの達成目標
		実績	64.3	63.9	49.2		(2028年度)	
「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合	%	目標	-	-	-	-	95.0	「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合 ※同上
		実績	90.5	92.6	76.2		(2028年度)	
		目標						
		実績						

②成果指標およびその他成果の説明

◆新たにイベントへの出張形式のスポーツ教室の開催やスポーツに関するショート動画の作成等を行い、スポーツをするきっかけづくりに取り組みました。◆ホームタウンチームのホームゲーム年間観戦者数はFC町田ゼルビアが353,039人、ASVベスカドーラ町田が19,126人で、観戦者の合計は前年比で約2倍となり、町田市のシティプロモーションに大きく貢献しました。◆「まちだサポーターズ」として、ホームタウンチーム支援活動をはじめ、観光・文化・防災・福祉等、様々な活動に参加したことにより、スポーツに関するボランティア活動を行った割合は6.0%となり、2023年度に比べ2.3ポイント増加しました。◆「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合は2023年度に比べ16.4ポイント減少しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	104,956	121,597	137,804	16,207	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	8,783	13,237	11,996	△ 1,241		保険料	0	0	0	0
	物件費	669,004	704,709	718,616	13,907		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	636,903	670,792	663,371	△ 7,421		都支支出金	1,510	2,143	13,995	11,852
	維持補修費	26,973	19,613	42,847	23,234		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	7,880	8,264	7,963	△ 301
	補助費等	56,185	64,341	57,377	△ 6,964		その他	5,589	5,093	5,111	18
	減価償却費	306,696	306,696	304,100	△ 2,596		行政収入 小計(a)	14,979	15,500	27,069	11,569
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 1,157,937	△ 1,223,075	△ 1,270,179	△ 47,104
	賞与・退職手当引当金繰入額	9,102	21,619	36,504	14,885		金融収支差額(d)	△ 2,011	△ 1,990	△ 1,904	86
	行政費用 小計(b)	1,172,916	1,238,575	1,297,248	58,673		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 1,159,948	△ 1,225,065	△ 1,272,083	△ 47,018
	特別費用(g)	5,284	0	0	0		特別収入(f)	20,748	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	15,464	0	0	0		当期収支差額(e)+(h)	△ 1,144,484	△ 1,225,065	△ 1,272,083	△ 47,018

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	総合体育館外3施設指定管理料 270,551千円 室内プール指定管理料 256,845千円 学校温水プール等総合管理業務委託 43,100千円 シャトルバス輸送業務委託料 37,994千円 など	総合体育館 中央監視装置配線修繕 5,720千円 総合体育館 吸収冷温水機修繕 4,950千円 成瀬グリーンセンターテニスコート給湯設備修繕 3,620千円 総合体育館 電気室排気ファン修繕 2,640千円 など
主な増減理由	総合体育館の指定管理者の公募に際し、仕様等を見直したことにより、指定管理料が13,832千円減少。総合体育館に仮設空調設備を設置したことにより、賃賃借料が19,980千円増加 など	総合体育館の中央監視装置の修繕を行ったことにより、5,720千円増加。総合体育館の吸収冷温水機の修繕を行ったことにより、4,950千円増加 など
勘定科目	補助費等	都支支出金
決算額の主な内訳	スポーツ協会補助金 44,139千円 こどもマラソン大会実施負担金 3,281千円 全国大会等出場者祝金 3,120千円 鶴見川グリーンセンター維持管理負担金 2,847千円 など	市町村総合交付金 11,000千円 スポーツ振興等事業費補助金(地域スポーツ推進事業) 2,246千円 スポーツ振興等事業費補助金(パラスポーツ推進事業) 749千円
主な増減理由	成瀬グリーンセンターテニスコート管理棟の改修工事完了により、休場期間中の利用料金収入補填が不要となったため、3,240千円減少 など	室内プールや総合体育館において修繕を行ったことにより、市町村総合交付金が11,000千円増加 など

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	還付未済金	101,530	102,795	1,265
	不納欠損引当金	0	0	0		地方債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		賞与引当金	91,044	90,016	△ 1,028
固定資産	有形固定資産	8,247,282	8,187,673	△ 59,609	固定負債	その他の流動負債	10,486	12,779	2,293
	土地	1,902,208	2,136,538	234,330		地方債	0	0	0
	建物(取得価額)	13,757,155	13,759,076	1,921		退職手当引当金	1,341,522	1,265,941	△ 75,581
	建物減価償却累計額	△ 7,560,407	△ 7,844,385	△ 283,978		その他の固定負債	1,244,802	1,154,787	△ 90,015
	工作物(取得価額)	275,501	275,501	0		負債の部合計	96,720	111,154	14,434
	工作物減価償却累計額	△ 127,175	△ 139,057	△ 11,882		純資産	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0		純資産の部合計	1,443,052	1,368,736	△ 74,316
	インフラ資産	0	0	0		負債及び純資産の部合計	6,804,230	6,818,937	14,707
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	0	0	0					
資産の部合計		8,247,282	8,187,673	△ 59,609			8,247,282	8,187,673	△ 59,609

④貸借対照表の特徴的事項

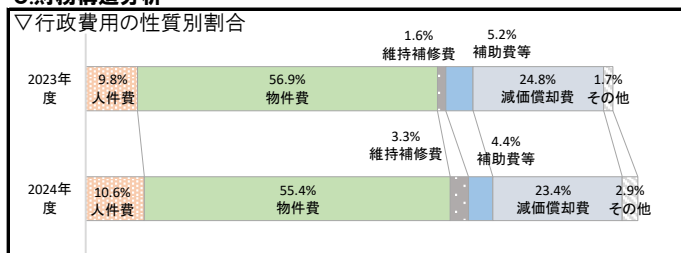
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)
決算額の主な内訳	山崎第二スポーツ広場土地 806,105千円 市立総合体育館土地 764,504千円 など	総合体育館建物 6,675,172千円 室内プール建物 6,204,727千円 総合体育館駐車場 590,376千円 など	総合体育館メインアリーナ大型映像装置 117,700千円 木曽中学校校庭照明設備 40,376千円など
主な増減理由	(仮称)町田木曽山崎パラアリーナに関する土地の所管換えにより、234,330千円増加。	室内プールの修繕を行ったことにより、10,161千円増加 など	減価償却により、11,882千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

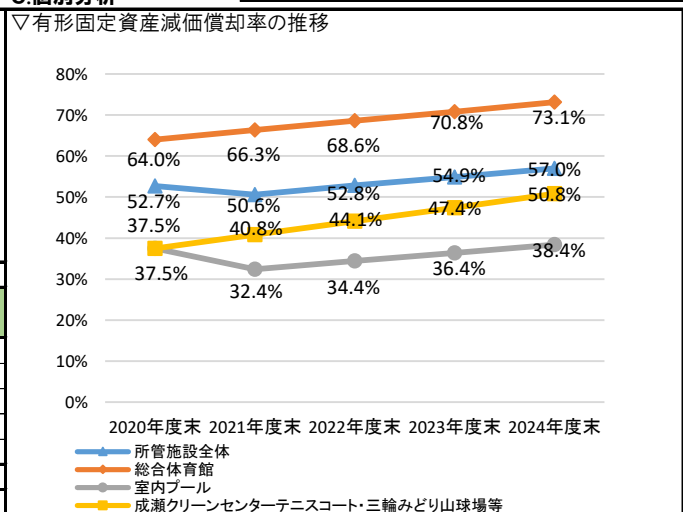
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	27,069	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	978,325	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	91,044
行政サービス活動収支差額(a)	△ 951,256	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 91,044
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 1,042,300
				一般財源充当調整額	1,042,300

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
施設管理及び地域スポーツクラブ支援事務	3.5			0.3		3.8	2.8
ホームタウンチーム支援事務	1.4					1.4	2.0
施設整備事務	0.4					0.4	0.4
スポーツ振興事務	9.7			1.7		11.4	9.8
2024年度 歳出目 合計	15.0	0.0	0.0	2.0	0.0	17.0	15.0
2023年度 歳出目 合計	13.0	0.0	0.0	2.0	0.0	15.0	

7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆「週1回以上スポーツをする市民の割合」の減少については、アンケート手法の変更に伴い、アンケートの項目のうち、「する」スポーツに関する設問項目を一部変更したことが、大きな要因と分析しています。◆ホームタウンチームの紹介・試合結果等について、SNSで285回投稿し、広くPRした結果、SNSの登録者数が148人増加しました。◆「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合について、「みる」「支える」については増加しましたが、「する」割合が大きく減少したことから、2023年度に比べ16.4ポイント減少しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆総合体育館に仮設空調設備を設置し、利用者の利便性・快適性の向上を図った結果、物件費が13,907千円増加しています。◆FC町田ゼルビアのJ1昇格を契機に、町田駅ベデストリアンデッキウォールギャラリーの装飾をはじめとした広報事業の充実を図りました。ホームゲーム年間観戦者数は過去最高人数を記録し、来訪者にホームタウンチームを広くPRしました。◆小学生を対象としたパラバドミントン体験会の充実、公益財団法人日本財団パラスポーツサポートセンターとの協定締結など、障がい者スポーツの充実を図ったことから、スポーツ振興事務に関わる人員は1.6人増加しています。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆働き盛り・子育て世代の方のスポーツ実施率が特に低い傾向にあるため、スポーツに取り組むきっかけづくりを行っていく必要があります。◆ASVベスカドーラ町田の認知度は58.3%で、FC町田ゼルビアの97.7%と比較的低く、ホームゲーム年間観戦者数をさらに増やすために、一層認知度を向上していく必要があります。◆「まちだサポーターズ」の活動延べ人数は2,625人で、2023年度と比べて約800人減少しており、「まちだサポーターズ」が継続的に活動できる場を提供していく必要があります。◆「(仮称)町田木曽山崎パラアリーナ」の整備に向けて、事業者公募に取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆出張形式のスポーツ教室の実施場所を拡大し、スポーツに取り組めるきっかけづくりをします。◆各ホームタウンチームと協力し、試合情報や活動紹介等のPR活動を継続していきます。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」が、継続して活動を広げていけるように支援します。	◆「町田市スポーツ推進計画19-28後期アクションプラン(2024年度~2028年度)」を実行し、多様なスポーツ機会を提供することで、市民のスポーツ実施率及び「する」「みる」「支える」でスポーツに関わる市民の割合向上を目指します。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
----	-----------	------	---------

歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	体育館事業	事業類型	1:施設運営受益者負担型
------	---------	-------	-------	------	--------------

1.事業概要

事業目的	町田市立総合体育館の施設と、附属設備の維持管理を適切に行います。 市民が気軽にスポーツに親しめるよう、スポーツを「する」場・「みる」場を提供します。					
基本情報	根拠法令等 町田市スポーツ施設条例					
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立総合体育館
	利用料金収入 (単位:千円)	82,235	92,644	95,552	建設年月日	1990年9月1日
	受益者負担比率	15.7%	18.3%	16.6%		
					有形固定資産減価償却率	2022年度 68.6% 2023年度 70.8% 2024年度 73.1%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆継続的にスポーツを「する」場・「みる」場を創出するとともに、利用者数の増加や施設利用率の向上に努める必要があります。
◆建設から30年以上が経過し、躯体や諸設備等が老朽化しているため、施設を安全・安心に利用できるよう、引き続き、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、適宜、修繕等を実施し、躯体や諸設備の維持保全に努める必要があります。
◆継続的にスポーツを「する」場・「みる」場を提供するため、大規模改修などの実現に向けて、より詳細な検討を進めていく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆各種情報媒体を活用した情報発信を行うとともに、各種大会や興行・イベントを開催することで、施設利用者数や施設利用率の向上を図ります。		◆「町田市スポーツ推進計画19-28」の基本目標を具現化するため、施設の大規模改修などを行い、スポーツを「する」場・「みる」場の環境整備を進めます。また、工事期間中にあつては、関係各所やホームタウンチームなどと連携・協力しながら、スポーツを「する」場の環境確保に努めます。	
◆安全・安心な施設利用や継続的なスポーツを「する」場・「みる」場の確保に向けて、適宜、修繕などを施します。◆大規模改修などの実現に向けて、詳細な劣化診断などを行い、施設整備の方向性を示します。			
取組状況	◎	◎ 大会誘致や教室事業の開催、トレーニングルームの機器更新などに取り組んだ結果、施設利用者数が8%増加しました。	
	◎	◎ SNSやHPを活用した情報発信、市内小学校へのイベント周知などを積極的に行った結果、イベント参加者数が349%増加しました。	
	○	○ メインアリーナ内への仮設空調設備の設置や諸設備の応急修繕の実施などにより、利用者の安全性や利便性が向上しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設利用者数	人	目標	-	-	430,000	460,000	550,000	一般利用者のほか、大会参加者や観客、各種事業参加者を含む
		実績	305,892	342,097	371,159	-	(2028年度)	
施設利用率	%	目標	-	-	92	93	95	メイン及びサブアリーナ・小体育室・武道場・和洋弓場の平均利用率
		実績	92	94	93	-	(2028年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆大会誘致や教室事業の開催、またトレーニングルームの機器更新など、積極的に利用者サービスの向上に取り組んだ結果、目標には達しなかったものの、2023年度に比べ、施設利用者数が29,062人(+8%)増加しました。
◆躯体や諸設備などの老朽化が進行する中で、メインアリーナ内に仮設の空調設備を設置したほか、既存の電気・消防・空調の設備などについて、応急修繕を行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	4,273	5,465	7,399	1,934	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	264,547	266,609	269,987	3,378		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	261,435	263,461	246,778	△ 16,683		都支出金	0	0	1,567	1,567
	維持補修費	5,229	7,336	30,100	22,764		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	169,003	169,003	166,647	△ 2,356		行政収入 小計(a)	0	0	1,567	1,567
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 443,924	△ 449,879	△ 475,494	△ 25,615
	賞与・退職手当引当金繰入額	872	1,466	2,928	1,462		金融収支差額 (d)	△ 54	△ 44	△ 33	11
	行政費用 小計 (b)	443,924	449,879	477,061	27,182		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 443,978	△ 449,923	△ 475,527	△ 25,604
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	0	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0		当期収支差額 (e)+(h)	△ 443,978	△ 449,923	△ 475,527	△ 25,604

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理料 246,329千円 空調設備賃借料 19,980千円 室内競技多目的表示システム賃借料 2,981千円 など	決算額の主な内訳	中央監視装置配線修繕 5,720千円 吸収冷温水機修繕 4,950千円 電気室排気ファン修繕 2,640千円 など
主な増減理由	指定管理者の公募に際し、仕様等を見直したことにより、指定管理料の13,832千円の減少。メインアリーナ内への仮設空調設備の設置による、賃借料の19,980千円増加 など	主な増減理由	中央監視装置の修繕による、5,720千円の増加。吸収冷温水機の修繕による、4,950千円増加 など
勘定科目	都支出金	勘定科目	
決算額の主な内訳	市町村総合交付金 1,567千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	メインアリーナ雨水配管改修工事及び外壁防水他改修工事を行ったことによる、市町村総合交付金の1,567千円増加。	主な増減理由	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
総合体育館利用者1人あたりコスト	人	2024	371,159	1,285	△ 30	施設利用者数が増加したことにより、1人あたりのコストが30円減少しました。
		2023	342,097	1,315	△ 136	
		2022	305,892	1,451	△ 454	
延べ床面積1㎡あたりのコスト	㎡	2024	24,767	19,262	1,098	施設の老朽化により、諸設備の修繕件数が増えたことで、行政費用が増加したため、1㎡あたりのコストが1,098円増加しました。
		2023	24,767	18,164	240	
		2022	24,767	17,924	319	

④貸借対照表

(単位:千円)

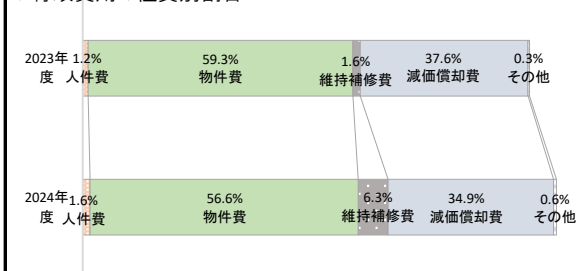
勘定科目		2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A					
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	4,988	5,213	225					
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	4,509	4,520	11					
					賞与引当金	479	693	214					
固定資産	事業用資産	有形固定資産	2,932,574	2,765,927	△ 166,647	その他の流動負債	0	0	0				
		土地	764,504	764,504	0	固定負債	18,898	16,076	△ 2,822				
		建物(取得価額)	7,265,548	7,265,548	0	地方債	14,161	9,642	△ 4,519				
		建物減価償却累計額	△ 5,185,783	△ 5,344,437	△ 158,654	退職手当引当金	4,737	6,434	1,697				
		工作物(取得価額)	123,121	123,121	0	その他の固定負債	0	0	0				
		工作物減価償却累計額	△ 34,816	△ 42,809	△ 7,993	負債の部合計	23,886	21,289	△ 2,597				
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	純資産	2,908,688	2,744,638	△ 164,050				
		有形固定資産	0	0	0								
										土地	0	0	0
										工作物(取得価額)	0	0	0
										工作物減価償却累計額	0	0	0
		無形固定資産	0	0	0								
	建設仮勘定	0	0	0									
	その他の固定資産	0	0	0	純資産の部合計	2,908,688	2,744,638	△ 164,050					
	資産の部合計		2,932,574	2,765,927	△ 166,647	負債及び純資産の部合計	2,932,574	2,765,927	△ 166,647				

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)
決算額の主な内訳	総合体育館土地 764,504千円	総合体育館建物 7,265,548千円	大型映像装置 117,700千円 大型懸垂幕掲出装置 3,224千円 ゆりーとコミュニケーション時計塔 2,197千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、158,654千円減少。	減価償却により、7,993千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



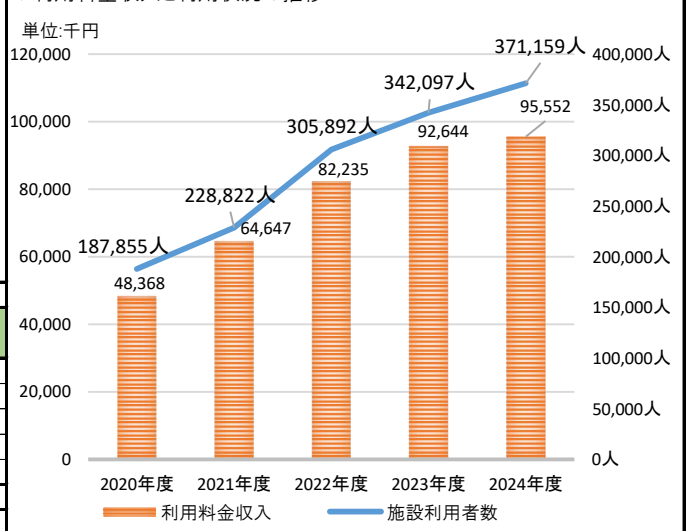
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
内訳	総合体育館管理事務	0.9					0.9	0.6
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計		0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.6
2023年度 特定事業 合計		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆各種大会誘致や教室事業の開催、イベントの実施、トレーニングルームの機器更新など、積極的に利用者サービスの向上に取り組んだことにより、2023年度と比較して、施設利用者数が29,062人(+8%)増加しました。

◆躯体や諸設備などの老朽化に伴い、緊急対応を要する不具合が生じたことにより、物件費及び維持補修費は増加しましたが、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、設備の新設や適切な修繕を行うことで、継続して、安全・安心に利用できる環境を提供しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆2024年度より、3施設から4施設(町田市立総合体育館、成瀬クリーンセンターテニスコート、三輪みどり山球場、緑ヶ丘グラウンド)への一括管理に変更したことで、教室事業の充実などによる利用者サービスの向上、また、修繕にかかる資材の一括購入・施工などによる管理コストの縮減など、業務の効率化を図りました。

◆施設利用者数の増加により、利用料金収入が2,908千円(+3%)増加したことで、指定管理者による自主事業の更なる充実や適切な修繕の実施など、運営の効率化を図りました。

◆通常業務に加え、新たに、指定管理者の変更に伴う調整や大規模改修に向けた検討などの一時的な業務が生じたため、事業に関わる人員が増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆安定的な施設の貸出に加え、各種大会や興行、イベントを誘致・開催するなど、施設利用者数の増加に取り組む必要があります。

◆諸室毎の利用率に差があるため、予約のない時間帯を有効に活用し、新規事業を実施するなど、施設利用率の向上を図る必要があります。

◆建築から30年以上が経過し、躯体や諸設備などが老朽化しているため、施設を安全・安心に利用できるよう、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、修繕などを施し、維持保全に努める必要があります。

◆大規模改修の実現に向け、設計内容の検討に併せて、関係団体の意見も聴きながら、改修の内容を具体化していきます。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆安定的な施設の貸出に加えて、各種大会や興行・イベントを開催することで、施設利用者数向上を図ります。	◆施設の大規模改修を行い、スポーツを「する」場・「みる」場の環境整備を進めます。
◆安全・安心な施設の利用やスポーツを「する」場・「みる」場の環境確保に向けて、適宜、修繕などを実施します。	◆工事期間中のスポーツを「する」場の確保に向けて、関係各所と調整を行います。
◆大規模改修の実現に向け、指定管理者や関係団体と連携・協力しながら、設計を進めることで、改修内容を具体化します。	◆工事期間中は、関係各所やホームタウンチームと連携・協力し、市内のスポーツ施設を代替利用するなど、市民レベルの大会やホームゲームなどの実施に向けた調整に取り組めます。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	室内プール事業
事業類型	1.施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	室内プール(温浴施設を含む)の運営及び維持管理を適切に行い、市民が気軽にスポーツに親しみ、楽しむ場を提供します。							
基本情報	根拠法令等 町田市スポーツ施設条例							
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立室内プール		
	利用料金収入 (単位:千円)	64,156	79,189	86,704	建設年月日	1989年10月1日		
	受益者負担比率	13.2%	16.4%	16.7%		2022年度	2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率	34.4%	36.4%	38.4%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き、施設で魅力ある事業やイベントなどの実施を行うとともに、新たな利用者やリピーターの獲得に向けて、本施設に限らず、他施設との連携や周辺の自然環境を活かした事業を展開するなど、地域資源を有効に活用していく必要があります。
- ◆利用率が低い諸室の有効活用に向けて、利用者のニーズに沿った取り組みを検討・実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆新規利用者やリピーターの獲得に向けて、他施設との連携や周辺の自然環境を活かした事業を展開し、地域資源を有効に活用します。 ◆指定管理者と連携・協力しながら、施設内の各諸室の有効活用に向けて、利用者のニーズに沿った取り組みを検討・実施します。		◆地域の住民や組織、また、他施設とも連携・協力しながら、周辺の豊かな自然環境を活かした事業やイベントを継続的に展開し、スポーツを通じた、地域の活性化に取り組みます。	
取組状況	◎	◎ 教室事業の充実のほか、地域イベントなどで、積極的に施設の周知活動に取り組んだ結果、施設利用者数が10%増加しました。	
	◎	◎ 地域組織の代表者などで構成する「室内プール運営協議会」を年2回開催し、地域イベントへの参画を実現しました。	
	◎	◎ 教室事業やイベントなどの周知活動を行うため、これまで運用していたX(旧Twitter)に加え、新たにInstagramを開設しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設利用者数	人	目標	202,500	235,915	248,160	290,600	290,600	プール、トレーニング室、浴室等の利用者数・大会参加者や事業の参加人数
		実績	208,325	262,811	290,596	-	(2025年度)	
自主事業参加者数	人	目標	19,300	24,667	30,736	36,740	36,740	施設を有効に活用するために実施する自主事業の参加人数
		実績	24,184	31,193	36,852	-	(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆教室事業やイベント内容などの充実に加え、積極的に施設の周知活動を行ったことにより、施設利用者数は、1989年の開館以降で最高値となる、290,596人を記録しました。
- ◆自主事業参加者数は、新規の教室事業を実施するとともに、会議室やロビーを活用し、積極的に子ども向けのイベントを実施した結果、目標値を6,116人(+19%)上回りました。また、2023年度に比べて、5,659人(+18%)増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	2,621	3,412	5,823	2,411	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	287,362	289,461	277,700	△ 11,761		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	269,962	270,522	256,845	△ 13,677		都支出金	0	0	9,433	9,433
	維持補修費	16,276	1,980	4,693	2,713		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	12	0	△ 12
	減価償却費	123,891	123,891	123,891	0		行政収入 小計(a)	0	12	9,433	9,421
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 430,389	△ 419,692	△ 405,749	13,943
	賞与・退職手当引当金繰入額	239	960	3,075	2,115		金融収支差額 (d)	△ 1,081	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	430,389	419,704	415,182	△ 4,522		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 431,470	△ 419,692	△ 405,749	13,943
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	2,340	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	2,340	0	0	0		当期収支差額 (e)+(h)	△ 429,130	△ 419,692	△ 405,749	13,943

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理料 256,845千円 施設利用者駐車場用地賃借料 11,523千円 室内プールタッチプレート賃借料 3,278千円 など	決算額の主な内訳	プール熱交換器入替及び中間プレート交換修繕 1,200千円 室内プール照明改修工事 1,117千円 プール棟のセキュリティカメラ修繕 814千円 など
主な増減理由	指定管理料のうち、光熱水費高騰分が減少したことによる、委託料の13,677千円減少 など	主な増減理由	プール棟の設備修繕件数の増加による、施設修繕料の2,713千円増加。
勘定科目	都支出金	勘定科目	
決算額の主な内訳	市町村総合交付金 9,433千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	室内プール機械室建具改修工事を行ったことによる、都支出金の9,433千円増加。	主な増減理由	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
室内プール及び温浴施設棟利用者1人あたりコスト	人	2024	290,596	1,429	△ 168	施設利用者が増加したことにより、1人あたりのコストが168円減少しました。
		2023	262,811	1,597	△ 469	
		2022	208,325	2,066	△ 284	
延べ床面積1㎡あたりコスト	㎡	2024	10,239	40,549	△ 442	物件費が減少したことにより、1㎡あたりのコストが442円減少しました。
		2023	10,239	40,991	△ 1,043	
		2022	10,239	42,034	3,225	

④貸借対照表

(単位:千円)

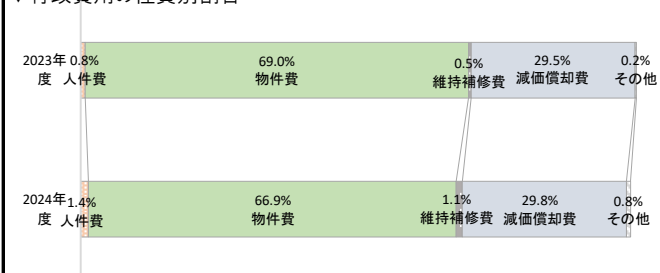
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			62,872	63,178	306
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		62,573	62,633	60	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	4,078,946	3,965,216	△ 113,730	賞与引当金		299	545	246	
		土地	139,685	139,685	0	その他の流動負債		0	0	0	
		建物(取得価額)	6,194,566	6,204,727	10,161	固定負債		936,537	876,010	△ 60,527	
		建物減価償却累計額	△ 2,255,305	△ 2,379,196	△ 123,891	地方債		933,580	870,947	△ 62,633	
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金		2,957	5,063	2,106	
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		999,409	939,188	△ 60,221	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		3,079,537	3,026,028	△ 53,509	
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
		無形固定資産	0	0	0						
		建設仮勘定	0	0	0						
		その他の固定資産	0	0	0	純資産の部合計		3,079,537	3,026,028	△ 53,509	
資産の部合計			4,078,946	3,965,216	△ 113,730	負債及び純資産の部合計	4,078,946	3,965,216	△ 113,730		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	室内プール土地 139,685千円	室内プール建物 5,099,867千円 健康増進温浴施設建物 1,076,092千円 室内プールのトップライト排煙窓 28,768千円	特になし
主な増減理由	増減なし	室内プール機械室建具改修工事による、10,161千円増加。減価償却による、123,891千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



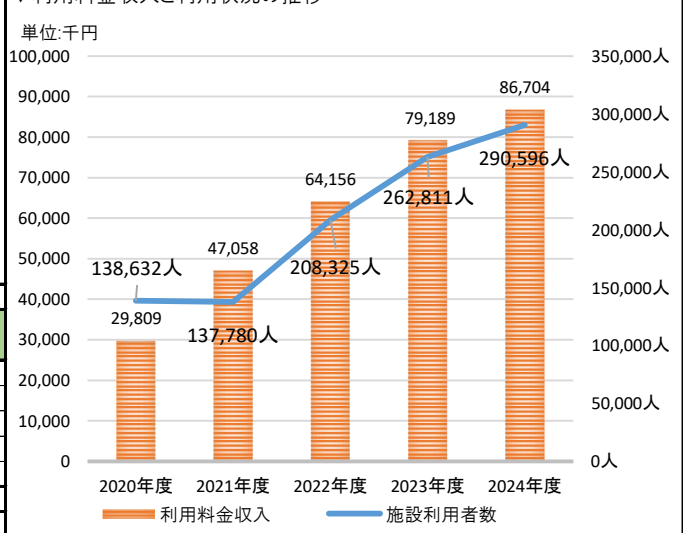
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024	2023
						合計	合計
内訳	室内プール管理事務	0.7				0.7	0.4
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計		0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.4
2023年度 特定事業 合計		0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆SNSやホームページを活用した、施設の情報発信に加えて、地域団体などと連携・協力し、近隣の小学校や公園などで実施したイベントにおいて、ニュースポーツ(モルックなど)の普及活動に併せて、施設のPR活動を行ったことなどにより、施設利用者数は、2023年度と比べて、27,785人(+10%)増加しました。
- ◆学校の夏期休業期間の一部において、市内の小学生を対象としたプールの開放事業を実施し、泳力に応じた教室を開催したほか、会議室を学習スペースとして開放するなど、子どもたちのスポーツを「する」場の確保や居場所づくりを行いました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆プールにおいては、初心者層の集客を目的とし、新たな泳法教室を実施したほか、温浴施設においては、月ごとの「かわり湯」など、季節に沿ったイベントや新規の教室事業を積極的に実施したことなどにより、2023年度に比べて、施設利用者数の増加に併せて、利用料金収入が7,515千円(+9%)増加しました。
- ◆施設利用者の増加に伴い、照明改修工事やセキュリティカメラの修繕など、積極的に施設利用者の利便性の向上に取り組んだため、事業にかかわる人員が増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆魅力ある事業やイベントなどを実施するとともに、新たな利用者やリピーターの獲得に向けて、他施設や地域団体などと連携・協力しながら、事業を展開するなど、地域に根差した施設運営を行う必要があります。
- ◆より多くの方に、施設を利用してもらえるよう、利用者ニーズに沿った取り組みを積極的に企画・実施していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆新規利用者やリピーターの獲得に向けて、他施設や地域団体などと連携した事業を展開するなど、地域に根差した施設運営に取り組めます。 ◆指定管理者と連携・協力しながら、施設内の各諸室の有効活用に向けて、利用者ニーズに沿った取り組みを企画・実施します。	◆地域に根差した施設を目指し、地域団体をはじめ、他の公共施設とも連携・協力しながら、市民のスポーツ推進に取り組めます。 ◆2018年度から2019年度にかけて実施した、大規模改修工事から5年以上が経過するため、計画的に小・中規模の改修工事を行います。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	屋外スポーツ施設事業
事業類型	1:施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	成瀬クリーンセンターテニスコート、三輪みどり山球場、緑ヶ丘グラウンドの施設及び附属設備の維持管理を適正に行い、市民が気軽にスポーツを楽しむ場を提供します。							
基本情報	根拠法令等 町田市スポーツ施設条例							
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	—		
	利用料金収入 (単位:千円)	30,903	28,318	29,484	建設年月日	—		
	受益者負担比率	34.4%	30.2%	36.9%		2022年度	2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率	44.1%	47.4%	50.8%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、状況に応じた修繕を適切に行うことで利用環境を改善し、利用者サービスを向上させる必要があります。また、魅力ある教室事業及びイベントを企画・実施し、周知に努める必要があります。
- ◆緑ヶ丘グラウンドでは、地域に根差した施設を目指し、利用者ニーズに沿った事業を展開するなど、引き続き、利用者を増加させる取り組みが必要です。
- ◆三輪みどり山球場では、施設の認知度及び利用率を向上させるため、魅力ある事業やイベントなどの企画・実施が必要です。
- ◆各屋外スポーツ施設では、効率的かつ効果的な管理運営を行うとともに、利用者に影響が及ばないよう、引き続き、適切に修繕を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、安全・安心にスポーツ活動が行えるよう、引き続き、施設環境を整えるとともに、魅力ある教室事業及びイベント企画・実施に取り組みます。◆緑ヶ丘グラウンドでは、利用者のニーズに沿った事業の企画・実施に取り組みます。◆三輪みどり山球場では、魅力ある事業やイベントなどの企画・実施に取り組みます。		◆市民が長きにわたり、スポーツに親しみ、楽しむことが出来るよう、適切に施設の修繕を行うとともに、各屋外スポーツ施設の特性を活かしたイベントや教室等を企画・実施し、利用率の向上に努めます。	
取組状況	◎	◎ 成瀬クリーンセンターテニスコートでは、人工芝修繕など、利用環境の整備に取り組んだ結果、利用率が6ポイント増加しました。	
	◎	◎ 緑ヶ丘グラウンドでは、地域のニーズに沿った防災イベントなどの新規事業を展開した結果、利用率が8ポイント増加しました。	
	◎	◎ 三輪みどり山球場では、ピッチングマシンを導入するなど、利用者サービスの向上を図った結果、利用率が10ポイント増加しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
成瀬クリーンセンターテニスコート利用率	%	目標	—	—	95	96	97	荒天などの貸出不可の場合を除きます。
		実績	93	89	95		(2028年度)	
緑ヶ丘グラウンド利用率	%	目標	—	—	75	76	80	荒天などの貸出不可の場合を除きます。
		実績	74	80	88		(2028年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートの利用率は、人工芝修繕のほか、クラブハウス内の物販の充実など、利用者サービス向上に取り組んだ結果、2023年度と比較して、6ポイント上昇しました。
- ◆緑ヶ丘グラウンドの利用率は、スポーツに親しむことができる環境づくりや地域のニーズに沿った事業に取り組んだ結果、目標値を13ポイント上回りました。
- ◆三輪みどり山球場は、施設の機能向上や機器の導入など、利用者サービスの向上に取り組んだ結果、利用率及び利用者数が増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	2,945	2,498	2,624	126	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	31,294	27,914	28,204	290		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	30,206	26,068	26,292	224		都支出金	0	0	0	0
	維持補修費	2,031	7,942	7,423	△ 519		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	3,240	0	△ 3,240		その他	0	0	0	0
	減価償却費	7,121	7,121	7,121	0		行政収入 小計(a)	0	0	0	0
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 44,003	△ 48,934	△ 45,925	3,009
	賞与・退職手当引当金繰入額	612	219	553	334		金融収支差額 (d)	△ 7	△ 7	△ 6	1
	行政費用 小計 (b)	44,003	48,934	45,925	△ 3,009		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 44,010	△ 48,941	△ 45,931	3,010
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	0	487	0	△ 487
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	487	0	△ 487		当期収支差額 (e)+(h)	△ 44,010	△ 48,454	△ 45,931	2,523

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理委託料 24,222千円 成瀬クリーンセンターテニスコート駐車場精算機賃賃借料 1,820千円 など	決算額の主な内訳	成瀬クリーンセンターテニスコート給湯設備修繕 3,620千円 成瀬クリーンセンターテニスコート人工芝部分補修修繕 1,298千円 など
主な増減理由	指定管理者の公募に際し、仕様等を見直したことにより、指定管理料の1,846千円の減少。三輪みどり山球場の枯損木伐採による、委託料の1,298千円の増加 など	主な増減理由	成瀬クリーンセンターテニスコートの施設修繕件数が減少したことによる、519千円の減少。
勘定科目	補助費等	勘定科目	
決算額の主な内訳	補助費等 0千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	成瀬クリーンセンターテニスコート管理棟の改修工事完了により、休場期間中の利用料金収入補填が不要となったため、3,240千円減少。	主な増減理由	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2024	142,190	323	△ 51	施設利用者数が増加したことにより、一人あたりコストが51円減少しました。
		2023	130,930	374	57	
		2022	138,882	317	△ 6	
		2024				
		2023				
		2022				

④貸借対照表

(単位:千円)

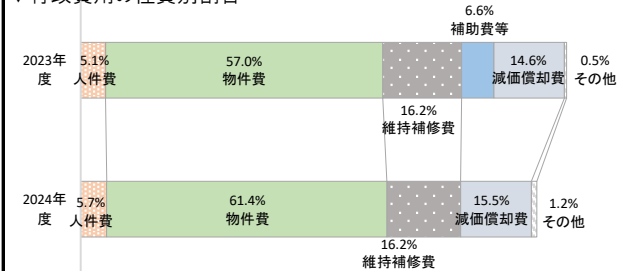
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			2,342	2,370	28
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		2,123	2,124	1	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	112,636	105,514	△ 7,122	賞与引当金		219	246	27	
		土地	0	0	0	その他の流動負債		0	0	0	
		建物(取得価額)	107,247	107,247	0	固定負債		14,920	12,913	△ 2,007	
		建物減価償却累計額	△ 53,602	△ 56,990	△ 3,388	地方債		12,755	10,631	△ 2,124	
		工作物(取得価額)	107,016	107,016	0	退職手当引当金		2,165	2,282	117	
		工作物減価償却累計額	△ 48,025	△ 51,759	△ 3,734	その他の固定負債		0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		17,262	15,283	△ 1,979	
		有形固定資産	0	0	0	純資産		95,374	90,231	△ 5,143	
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
建設仮勘定	工作物減価償却累計額	0	0	0							
	無形固定資産	0	0	0							
	建設仮勘定	0	0	0							
その他の固定資産			0	0	0	純資産の部合計		95,374	90,231	△ 5,143	
資産の部合計			112,636	105,514	△ 7,122	負債及び純資産の部合計		190,748	180,462	△ 10,286	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	テニスコート管理棟 53,300千円 緑ヶ丘グラウンド倉庫 37,017千円 など	緑ヶ丘グラウンド(機械) 32,553千円 テニスコート照明設備 22,746千円 など	特になし
主な増減理由	減価償却により、3,388千円の減少。	減価償却により、3,734千円の減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



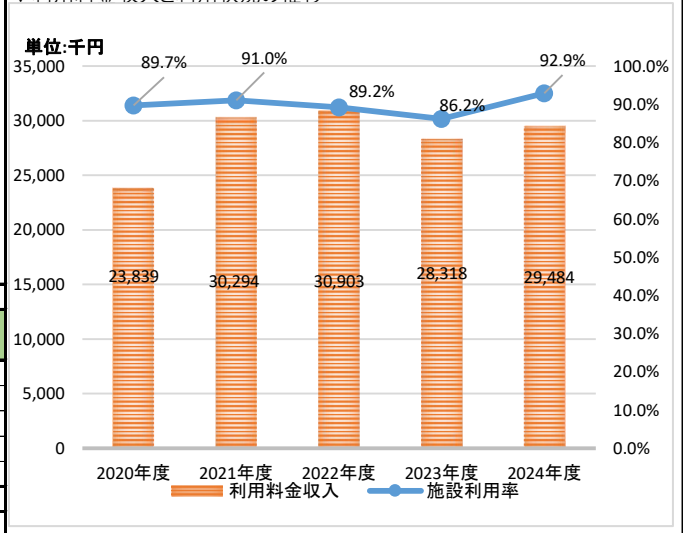
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024	2023
						合計	合計
屋外スポーツ施設管理事務	0.3					0.3	0.3
内訳						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3
2023年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、利用環境の改善に向けて、人工芝及び給湯設備の修繕を行い、利用者サービスの向上を図った結果、2023年度に比べて、施設利用率は6ポイント増加しました。
- ◆緑ヶ丘グラウンドでは、施設の有効活用及び地域のニーズに沿った取り組みとして、無料開放や防災イベントを実施するとともに、SNSによる情報発信を行うなど、利用者サービスの向上に努めた結果、2023年度に比べて、施設利用率は8ポイント増加し、目標値を13ポイント上回りました。
- ◆三輪みどり山球場では、機器の導入など、利用者サービス向上に取り組んだ結果、施設利用率が2023年度に比べて、10ポイント増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆2024年度より、3施設から4施設(町田市立総合体育館、成瀬クリーンセンターテニスコート、三輪みどり山球場、緑ヶ丘グラウンド)への一括管理に変更したことで、教室事業の充実などによる利用者サービスの向上、また、修繕にかかる資材の一括購入・施工などによる管理コストの縮減など、業務の効率化につながり、2023年度に比べて、指定管理料が1,846千円(△7%)減少しました。
- ◆一括管理化により、各施設で教室事業の充実などによる利用者サービスの向上に取り組んだ結果、2023年度と比べて、施設利用者数が成瀬クリーンセンターテニスコートでは、8,543人(+8%)、三輪みどり山球場では、688人(+5%)、緑ヶ丘グラウンドでは2,029人(+12%)増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートは、建物の屋上に位置しているため、熱中症対策など、安全・安心に利用できる環境づくりに取り組む必要があります。
- ◆緑ヶ丘グラウンドでは、予約のない時間帯の有効活用に向けた事業を展開するなど、利用者数の増加に取り組む必要があります。
- ◆三輪みどり山球場では、利用者のニーズに沿った新たな事業を企画・実施し、特に平日日中の利用率の向上に取り組む必要があります。
- ◆各屋外スポーツ施設では、効率的かつ効果的な管理を行いながら、安定的な施設運営に向けて、適切に修繕などを行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、施設の特徴に応じ、安全・安心に利用できる環境づくりに取り組みます。◆緑ヶ丘グラウンドでは、利用者ニーズを踏まえ、予約のない時間帯の有効活用に取り組めます。◆三輪みどり山球場では、利用者のニーズに沿った新たな事業の企画・実施により、平日日中の利用率向上に取り組めます。	◆市民が長きにわたり、スポーツに親しみ、楽しむことが出来るよう、適切に施設の修繕を行うとともに、各屋外スポーツ施設の特徴を活かしたイベントや利用者ニーズを踏まえた教室、イベント等を企画・実施し、利用者数及び利用率の向上に取り組めます。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	学校施設開放事業
事業類型	1:施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	市立小中学校の校庭、体育館、夏期学校プール開放、木曽中学校夜間照明設備、中学校温水プール(町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校)を夜間や休日など、学校の授業や部活動で使用していない時間帯を市民に開放し、市民のスポーツ活動を推進します。							
基本情報	根拠法令等	町田市立学校施設の開放に関する条例						
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	—		
	利用料金収入 (単位:千円)	7,426	8,264	7,963	建設年月日	—		
	受益者負担比率	11.0%	13.0%	10.5%		2022年度	2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率	100.0%	100.0%	100.0%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆学校施設開放事業のうち、体育館開放については、利用者が安全・安心にスポーツに親しめるよう、利用環境を整備していく必要があります。
- ◆学校温水プール開放事業は、安全・安心に利用できる環境を整えつつ、継続的に利用者のニーズに沿った取り組みを実施していく必要があります。
- ◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業を定着させ、安定的に運営していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆利用者が安全・安心にスポーツに親しみ、楽しむことができるよう、継続的に備品の更新や消耗品の購入等を行い、利用環境の改善に努めます。 ◆学校温水プール事業は、利用者ニーズに沿う取り組みを継続実施します。 ◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業の利用者数の増加に向けた周知活動等を実施します。		◆学校教育に支障のない範囲において、市民に社会体育施設を開放することで、スポーツ活動を推進するとともに、地域コミュニティの活性化を図ります。	
取組状況	個別取組	○ 学校開放事業では、安全・安心に施設を利用できるよう、備品や消耗品を購入するなど、環境の改善に努めました。	
		○ 学校温水プール事業では、継続的に無料レッスンを行うなど、利用者ニーズに沿った取り組みを実施しました。	
		○ 夏期学校プール開放事業は、新たに電子によるチラシの配布などの周知活動を実施しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
学校温水プール利用者数	人	目標	—	—	—	—	—	学校温水プールの利用者数
		実績	24,734	25,846	25,321	—	—	
木曽中学校夜間照明設備団体利用者数	人	目標	—	—	—	—	—	木曽中学校夜間照明設備の団体利用者数
		実績	11,696	12,673	11,923	—	—	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆学校温水プールの利用者数は、町田第一中学校温水プールの改修工事に伴う休館により、2023年度に比べ、525人(△2%)減少しました。
- ◆木曽中学校夜間照明設備の団体利用者数は、降雨によるグラウンド不良や団体ごとの人数の減少などの影響を受け、750人(△6%)減少しました。
- ◆学校温水プール開放事業では、利用者のニーズに沿って、無料レッスン・ワンポイントレッスンを実施しました。
- ◆夏期学校プール開放事業は、市立室内プール及び学校温水プール3校を活用し、市内小学生を対象に実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	6,935	6,707	13,951	7,244	地方税	0	0	0	0
物件費	56,292	56,127	54,252	△ 1,875	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	53,040	53,346	51,563	△ 1,783	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	2,838	0	0	0	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	7,880	8,264	7,963	△ 301
補助費等	158	160	227	67	その他	266	351	364	13
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	8,146	8,615	8,327	△ 288
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 59,427	△ 54,973	△ 67,555	△ 12,582
賞与・退職手当引当金繰入額	1,350	594	7,452	6,858	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	67,573	63,588	75,882	12,294	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 59,427	△ 54,973	△ 67,555	△ 12,582
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	672	0	△ 672
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	672	0	△ 672	当期収支差額 (e)+(h)	△ 59,427	△ 54,301	△ 67,555	△ 13,254

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	学校温水プール等総合管理業務委託 43,100千円 夏期プール開放事業受付及び監視業務等委託 3,992千円 町田第一中学校外2校開放受付等業務委託 2,241千円 など	決算額の主な内訳	学校温水プール施設使用料 7,491千円 木曽中学校夜間照明設備使用料 472千円
主な増減理由	町田第一中学校温水プールの改修工事に伴う休館による、委託料の1,783千円減少 など	主な増減理由	学校温水プール利用者数の減少による、使用料の267千円減少。夜間照明設備の団体利用者数減少による、使用料の34千円減少。
勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2024	521,567	145	20	利用者数は増加したものの、人件費の増加により、1人あたりのコストが20円増加しました。
		2023	508,478	125	△ 22	
		2022	461,052	147	△ 47	
開放1日あたりコスト	日	2024	17,289	4,389	835	開放日数の減少による使用料及び手数料の減少に加え、人件費の増加により、1日あたりのコストが835円増加しました。
		2023	17,894	3,554	△ 462	
		2022	16,824	4,016	△ 2,242	

④貸借対照表

(単位:千円)

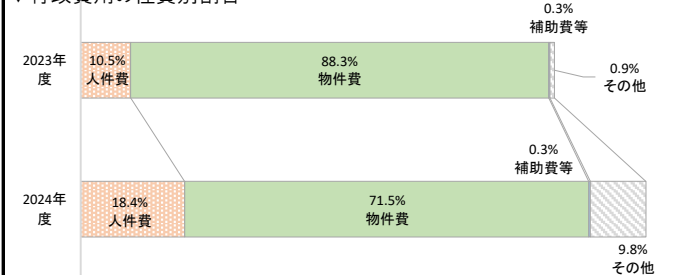
勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			594	1,304	710	
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	賞与引当金			594	1,304	710	
		土地		0	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)		4,944	4,944	0	固定負債			3,967	9,334	5,367
		建物減価償却累計額		△ 4,944	△ 4,944	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)		40,376	40,376	0	退職手当引当金			3,967	9,334	5,367
		工作物減価償却累計額		△ 40,376	△ 40,376	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	負債の部合計			4,561	10,638	6,077	
		有形固定資産		0	0	純資産			△ 4,561	△ 10,638	△ 6,077	
		土地		0	0							
		工作物(取得価額)		0	0							
建設仮勘定	工作物減価償却累計額		0	0								
	無形固定資産		0	0								
	建設仮勘定		0	0								
その他の固定資産				0	0	純資産の部合計			△ 4,561	△ 10,638	△ 6,077	
資産の部合計				0	0	負債及び純資産の部合計			0	0		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	木曽中学校校庭開放管理棟 4,944千円	木曽中学校照明設備 40,376千円	特になし
主な増減理由	増減なし	増減なし	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



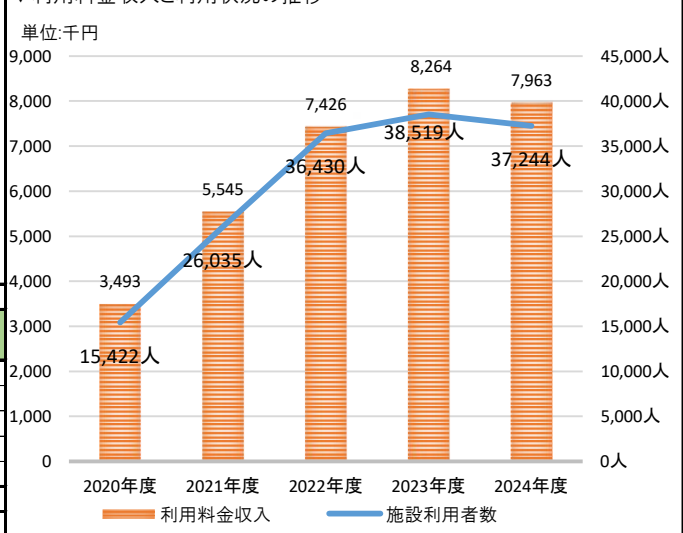
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
学校施設開放事務	0.7			0.6		1.3	0.8
夜間校庭開放事務	0.1			0.1		0.2	0.2
学校温水プール開放事務	0.5			0.1		0.6	0.3
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	1.3	0.0	0.0	0.8	0.0	2.1	1.3
2023年度 特定事業 合計	0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	1.3	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆学校温水プール開放事業では、町田第一中学校温水プールの改修工事に伴う休館により、2023年度に比べて、利用者数が525人(△2%)、委託料が1,783千円(△3%)減少しました。◆夏期学校プール開放事業は、熱中症や感染症への対策、プールの維持管理業務などにおける保護者や教職員等の負担軽減のため、各学校の屋外プールの活用を見直し、既存の屋内公共プールを活用する形態へ移行することで、利用者の安全を確保しつつ、安定的に夏休みのスポーツ活動の場を提供しました。◆木曽中学校夜間校庭照明設備の団体利用者数は、降雨によるグラウンド不良や団体ごとの人数の減少などの影響を受け750人(△6%)減少しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆夏期学校プール開放事業は、既存の屋内公共プールを活用した運用に移行する中で、各プールの管理者の協力を得ながら、新たに水泳教室を行うなど、事業の質を高めるとともに、効率化を図りました。◆「町田市新たな学校づくり推進計画」に基づく、学校統合及び建て替えにより、学校活用制度の見直しや統合対象となる学校開放団体との利用調整業務が生じたことに加え、新たに体育館空調費の徴収業務を通年で行うこととしたことにより、事業に関わる人員が0.8人増加しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆学校施設開放事業のうち、体育館開放については、利用者が安全・安心にスポーツに親しめるよう、利用環境を整備していく必要があります。◆「町田市新たな学校づくり推進計画」に基づく、学校統廃合に伴い、施設の利用や備品の管理など、学校や利用団体と調整を進めていく必要があります。◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業を定着させ、安定的に運営していく必要があります。◆学校統合及び建て替えに伴う調整や体育館空調費の徴収業務の増加に対応するため、効率化に向けて取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆学校開放事業は、既存校における利用環境の整備に併せ、学校統合及び建て替えに伴う施設の利用調整や備品管理などに取り組みます。 ◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業の利用者数の増加に向けて、周知活動や事業の質の向上を図りながら、子どものスポーツを「する」場の確保や居場所づくりに取り組みます。	◆地域活用型学校の推進に向けて、新たな学校活用の仕組みの構築に取り組めます。 ◆既存の屋内公共プールを活用した事業を展開することで、安定的かつ継続的に、子どものスポーツ推進を図ります。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	クラブハウス管理事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

市民が気軽にスポーツを楽しめる場として、学校等の施設開放はますます重要になっています。学校開放施設利用者の利便性を向上するため、更衣室やトイレを備えた管理施設(クラブハウス)を運営し、より多くの市民がスポーツに親しむことができる環境を提供します。

基本情報	根拠法令等	2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	クラブハウス(5箇所)		
					建設年月日	-		
						2022年度	2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率	24.3%	27.8%	31.3%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆市民のスポーツ実施率向上のため、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆学校施設利用者の利便性向上を図るとともに、地域スポーツクラブによる教室事業・イベントの実施により、既存のクラブハウスを活用し、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していきます。				◆学校施設利用者の利便性向上を図るほか、地域スポーツクラブによる教室事業・イベントの実施を支援していくことで、引き続き、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していきます。 ◆「町田市新たな学校づくり推進計画」を踏まえた施設の活用方法について、検討していきます。			
取組状況	○	個別取組	○	地域スポーツクラブによるスポーツ教室や、文化活動などクラブハウスを活用した事業を展開しました。			

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
開放施設利用者数	人	目標	-	-	-	-	-	クラブハウスを設置した施設の開放利用者数(校庭・体育館・クラブハウス)
		実績	61,895	67,612	73,006			
地域スポーツクラブの会員数	人	目標	-	-	-	-	-	地域スポーツクラブの個人会員、団体会員の人数
		実績	2,989	3,425	4,148			

②成果指標およびその他成果の説明

◆地域スポーツクラブによる事業展開に加え、開放施設利用者の利便性向上を図ったことで、開放施設利用者数は、5,394人増加(+8%)しました。

◆新規の地域スポーツクラブの開設などにより、地域スポーツクラブの会員数が723人増加(+21.1%)しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	1,112	1,723	1,177	△ 546	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	11,142	11,478	6,507	△ 4,971		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	10,526	11,039	6,146	△ 4,893		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	0	1,553	0	△ 1,553		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	4	2	1	△ 1
	減価償却費	5,962	5,962	5,962	0		行政収入 小計(a)	4	2	1	△ 1
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 18,294	△ 21,356	△ 13,763	7,593
	賞与・退職手当引当金繰入額	82	642	118	△ 524		金融収支差額(d)	△ 8	△ 6	△ 4	2
	行政費用 小計(b)	18,298	21,358	13,764	△ 7,594		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 18,302	△ 21,362	△ 13,767	7,595
	特別費用(g)	0	0	0	0		特別収入(f)	24	0	243	243
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	24	0	243	243		当期収支差額(e)+(h)	△ 18,278	△ 21,362	△ 13,524	7,838

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	クラブハウス管理業務委託 5,959千円 光熱水費 236千円 クラブハウス機械警備委託 187千円 など	維持補修費 0千円
主な増減理由	2か所のクラブハウスにおいて、受付などの業務を委託事業者から利用団体に変更したことにより、管理業務委託料が4,808千円減少 など	施設の修繕が発生しなかったことにより、1,553千円減少。
勘定科目		
決算額の主な内訳	特になし	特になし
主な増減理由		

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
開放利用者1人あたりのコスト	人	2024	73,006	189	△ 127	開放施設利用者数が増加したことに加え、物件費が減少したこと、維持補修費が発生しなかったことから行政費用が減少し、1人あたりのコストが127円減少しました。
		2023	67,612	316	20	
		2022	61,895	296	△ 57	
開放1日あたりのコスト	日	2024	1,382	9,959	△ 4,883	物件費が大きく減少したこと、維持補修費が発生しなかったことから行政費用が減少し、1日あたりのコストが4,883円減少しました。
		2023	1,439	14,842	799	
		2022	1,303	14,043	△ 3,357	

④貸借対照表

(単位:千円)

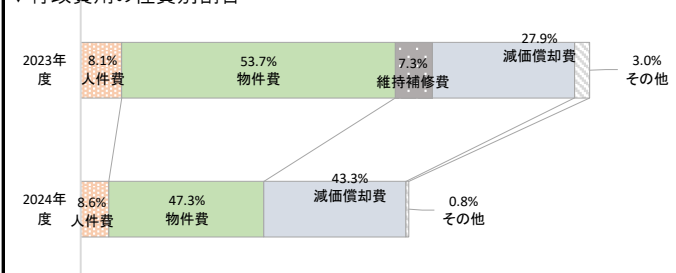
勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			2,232	2,200	△ 32	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			2,080	2,082	2	
							賞与引当金			152	118	△ 34	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		121,880	115,917	△ 5,963	その他の流動負債			0	0	0	
		土地		0	0	0	固定負債			3,291	892	△ 2,399	
		建物(取得価額)		168,787	168,787	0	地方債			2,082	0	△ 2,082	
		建物減価償却累計額		△ 46,907	△ 52,870	△ 5,963	退職手当引当金			1,209	892	△ 317	
		工作物(取得価額)		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	負債の部合計			5,523	3,092	△ 2,431	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	純資産			116,357	112,825	△ 3,532	
		有形固定資産		0	0	0							
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
工作物減価償却累計額		0	0	0									
	無形固定資産		0	0	0								
	建設仮勘定		0	0	0								
	その他の固定資産		0	0	0	純資産の部合計			116,357	112,825	△ 3,532		
	資産の部合計		121,880	115,917	△ 5,963	負債及び純資産の部合計			121,880	115,917	△ 5,963		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)		
決算額の主な内訳	七国山小学校クラブハウス 52,923千円 南大谷小学校クラブハウス 46,481千円 町田第四小学校クラブハウス 36,510千円 など	特になし	特になし
主な増減理由	減価償却により、5,963千円減少。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



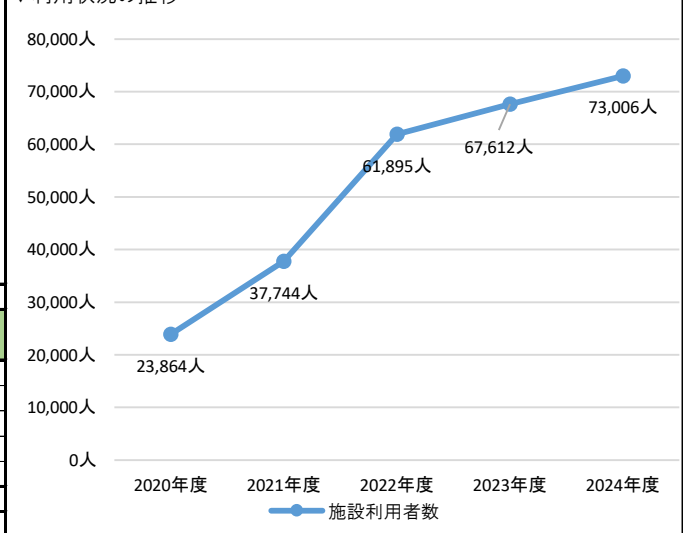
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024	2023
						合計	合計
クラブハウス管理事務	0.1					0.1	0.3
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
2023年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆学校開放制度の運用方法を見直し、運動負荷が少ない競技の利用者や見学中の保護者等の安全・健康面に配慮するため、通年で空調設備を使用できるよう調整し、利便性の向上を図ったことにより、学校開放施設利用者数が5,394人増加(+8%)しました。
- ◆新規地域スポーツクラブの開設に加え、既存の地域スポーツクラブでも会員獲得に努めた結果、地域スポーツクラブの会員数が増加し、地域スポーツクラブが拠点としているクラブハウスの利用者数も増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆2023年度はクラブハウスの維持補修に伴う現地調査等の業務がありましたが、2024年度は施設の補修が発生しなかったため、事業に関わる人員は2023年度に比べて0.2人減少しました。
- ◆クラブハウスの管理方法を見直したことにより、物件費の行政費用全体に占める割合が2023年度に比べて、6.4%減少しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆地域スポーツクラブをはじめとした、より多くの方にクラブハウスを活用していただくための周知をする必要があります。
- ◆クラブハウスを安全・安心に利用できるよう修繕を行うなど、適切に維持・管理していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆クラブハウスを活用したスポーツ機会を充実させていくため、地域スポーツクラブによる広報活動を支援していきます。	◆学校施設利用者の利便性向上を図りながら、引き続き、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していきます。
	◆クラブハウスを安全・安心に利用できるよう修繕を行うなど、適切な維持・管理を実施していきます。

2024年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
----	-----------	------	---------

歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	スポーツ広場事業	事業類型	2:施設運営型
------	---------	-------	----------	------	---------

1.事業概要
事業目的 地域住民のスポーツ振興及び健康増進のため、町内会・自治会、スポーツ団体等が、未使用の市有地又は民有地などをスポーツ広場として暫定利用する際に、市が必要な支援を行うものです。

基本情報	根拠法令等	2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	スポーツ広場(22箇所)		
					建設年月日	-		
						2022年度	2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率	84.3%	86.3%	76.0%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況
①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題
◆市民が気軽に広場を利用できるよう、関係団体と調整し、利用の拡大を図る必要があります。
◆市民のスポーツ実施率向上のため、様々な媒体で広場の情報を周知する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況	
短期的な取り組み(1~2年)	
◆団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を公開します。 ◆スポーツマップや市HPへ広場の情報を掲載し、周知を図ります。	
中長期的な取り組み(3~5年)	
◆市有地(中小規模)や、民有地スポーツ広場については、市民がスポーツ広場を気軽に利用できるよう、各スポーツ広場の利用時間や利用方法等を公開していきます。	
取組状況	○ 団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を公開しました。 ○ 市民が様々な媒体でスポーツ広場の情報を取得できるよう、スポーツマップや市HPへスポーツ広場の情報を掲載しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
スポーツ広場団体利用者数	人	目標	-	-	-	-	-	スポーツ広場の団体利用者数
		実績	204,433	221,926	203,333			
スポーツ広場数	箇所	目標	-	-	-	-	-	スポーツ広場の数
		実績	22	22	22			

②成果指標およびその他成果の説明

◆酷暑による利用控えや、スポーツ広場1か所を、閉鎖に向けて利用制限したことなどにより、2024年度は2023年度に比べ、利用者数が18,593人(△8.4%)減少しました。

4.財務情報											
①行政コスト計算書											
(単位:千円)											
勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目		2022年度	2023年度	2024年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	4,227	2,725	3,762	1,037	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	4,363	4,137	4,115	△ 22		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	1,683	1,700	1,646	△ 54		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	599	802	630	△ 172		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	106	106
	減価償却費	323	323	323	0		行政収入 小計(a)	0	0	106	106
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 10,984	△ 8,227	△ 10,554	△ 2,327	
	賞与・退職手当引当金繰入額	1,472	240	1,830	1,590	金融収支差額 (d)	△ 33	0	△ 33	△ 33	
	行政費用 小計 (b)	10,984	8,227	10,660	2,433	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 11,017	△ 8,227	△ 10,587	△ 2,360	
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	1,533	0	△ 1,533		
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	1,533	0	△ 1,533	当期収支差額 (e)+(h)	△ 11,017	△ 6,694	△ 10,587	△ 3,893		

2行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の 主な内訳	光熱水費 1,479千円 剪定・除草委託料 995千円 施設原材料費 990千円 など	水道管漏水修繕(金井スポーツ広場) 556千円 散水栓修繕(三輪緑山スポーツ広場) 74千円
主な 増減理由	樹木伐採の剪定箇所が減少したため、剪定・除草委託料が409千円減少 など	修繕件数の減少により、172千円減少。

勘定科目	その他(行政収入)	
決算額の 主な内訳	光熱水費返還金106千円	特になし
主な 増減理由	スポーツ広場で生じた漏水に対して、水道料金の返還があったことにより、106千円増加。	

③単位当たりコスト分析		※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。				
指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
スポーツ広場利用者1人あたりコスト	人	2024	203,333	52	15	スポーツ広場利用者数が減少したことに加え、行政費用が増加したことから、1人あたりのコストが15円増加しました。
		2023	221,926	37	△ 17	
		2022	204,433	54	18	
スポーツ広場1箇所あたりコスト	箇所	2024	22	484,545	110,590	スポーツ広場数が変わらず、行政費用が増加したことから、1箇所あたりのコストが110,590円増加しました。
		2023	22	373,955	△ 125,318	
		2022	22	499,273	141,137	

④貸借対照表

(単位:千円)

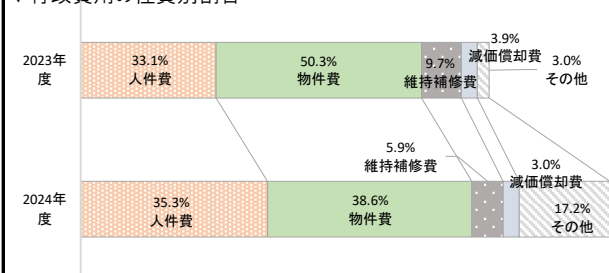
勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A
流動 資産	未収金			0	0	0	流動負債			240	364	124	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
							賞与引当金			240	364	124	
固定 資産	事業 用 資産	有形固定資産			1,000,217	999,894	△ 323	その他の流動負債			0	0	0
		土地			998,019	998,019	0	固定負債			2,078	3,271	1,193
		建物(取得価額)			16,064	7,824	△ 8,240	地方債			0	0	0
		建物減価償却累計額			△ 13,866	△ 5,949	7,917	退職手当引当金			2,078	3,271	1,193
		工作物(取得価額)			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
		工作物減価償却累計額			0	0	0	負債の部合計			2,318	3,635	1,317
	イン フラ 資 産	無形固定資産			0	0	0	純資産			997,899	996,259	△ 1,640
		有形固定資産			0	0	0						
		土地			0	0	0						
		工作物(取得価額)			0	0	0						
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0						
	建設仮勘定			0	0	0							
	その他の固定資産			0	0	0	純資産の部合計			997,899	996,259	△ 1,640	
資産の部合計				1,000,217	999,894	△ 323	負債及び純資産の部合計				1,000,217	999,894	△ 323

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	山崎第二スポーツ広場用地806,105千円 金森中央スポーツ広場用地141,807千円 など	スポーツ広場トイレ(2箇所) 7,750千円 スポーツ広場倉庫(1箇所) 74千円	特になし
主な増減理由	増減なし	鶴川エリア中学校給食センターの開所に伴い、金井スポーツ広場のトイレを廃止したことにより、8,240千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



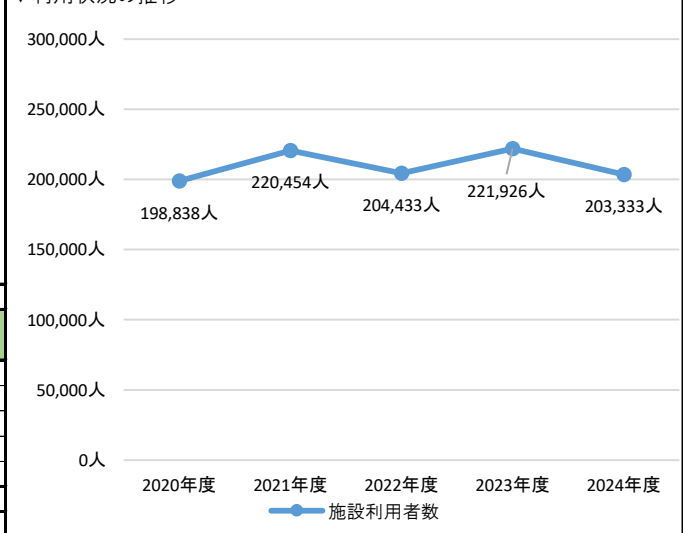
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
内訳	スポーツ広場事務	0.4					0.4	0.4
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2024年度 特定事業 合計		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4
2023年度 特定事業 合計		0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆スポーツ広場の周知のため、スポーツやボール遊びを行うことができる身近な公園や広場等を掲載したスポーツマップの作成・配布を行い、203,333人の利用に繋がりました。
- ◆砂や土などの原材料を支給し、スポーツ広場の環境整備を行いました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆行政費用の38.6%を物件費が占めており、主な内訳としては光熱水費や剪定・除草委託料となっています。
- ◆事業に関わる人員として、スポーツ広場の閉鎖対応など、臨時的な業務が発生したことに伴い、常勤職員が2023年度から0.1人増加しています。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆市民が気軽にスポーツ広場を利用できるよう、関係団体と調整し、市民に向けて情報を提供していく必要があります。
- ◆市民のスポーツ実施率向上のため、様々な媒体でスポーツ広場の情報を周知する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を提供します。 ◆スポーツマップや市HPへスポーツ広場の情報を掲載し、周知を図ります。	◆市有地(中小規模)や、民有地スポーツ広場については、市民がスポーツ広場を気軽に利用できるよう、各スポーツ広場の利用時間や利用方法等を公開していきます。

2024年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	国際版画美術館	歳出目名	国際版画美術館費
			事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)	

1.組織概要

組織の使命	優れた美術作品に触れる機会、および学習、創作、発表を通して美術に親しむ機会と環境を提供します。また、貴重な文化財である版画作品を収集・保管し、市民の財産として未来に伝えます。					取 他 り 自 組 治 体 等 の	国際版画美術館は版画に特化した世界的にも珍しい美術館であり、版画の鑑賞ばかりでなく、版画制作や美術作品の展示といった利用も可能です。なかでも版画制作を行う版画工房を一般に開放している公立美術館は、首都圏では当館と横浜美術館のみであり、創作活動に資する環境を提供する場として大切に運営しております。			
所管事務	◆美術作品等の収集、保管及び展示、講演会等の事業の企画及び実施に関すること。◆版画に関する専門的、技術的な調査研究及び情報の提供、美術に関する教育普及及び広報活動に関すること。◆市民の美術学習及び団体活動の援助、施設及び設備の貸出し及び維持管理に関すること。									
	根拠法令等 町田市立国際版画美術館条例									
基本情報		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立国際版画美術館				
	利用料金収入 (単位:千円)	20,253	22,491	17,315	建設年月日	1986年8月1日				
	受益者負担比率	5.8%	6.5%	4.9%		2022年度	2023年度	2024年度		
					有形固定資産減価償却率	36.9%	38.2%	39.4%		

2.2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆施設利用者が2022年度よりも約2,900人増加し、新型コロナウイルス感染症流行前の活況に戻りました。SNSの積極的な活用などを通じて平素から美術に親しみのない層にも版画に興味を持ってもらい、国際版画美術館の魅力を情報発信して、来館者の満足につながる取り組みを図ることが肝要です。◆観覧料やミュージアムショップでの支払い等の利便を図るため、キャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”構想に基づき、より多くの方々に芸術に親しむを持ってもらえる施設にする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)			中長期的な取り組み(3~5年)		
◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、収蔵品を活用した魅力ある展覧会になるよう取り組みます。◆キャッシュレス決済の導入により、施設利用者の利便を考慮した施設になるよう検討します。			◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修や修繕工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。		
取組状況	○	個別取組	○ XおよびInstagramによる情報発信を、2023年度の526回から511回増やし577回実施し、国際版画美術館の魅力発信に努めました。		
		○	企画展示及び特集展示を計11回開催し、観覧者数は105,283人となり、目標の93,000人を上回りました。		
		○	2024年10月からキャッシュレス決済の運用を開始し、来館者の利便性向上を図りました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
国際版画美術館展覧会観覧者数	人	目標	96,000	110,000	93,000	85,000	85,000	企画展および特集展示の観覧者数の合計
		実績	108,844	119,027	105,283		(2025年度)	
観覧料、施設使用料、特別観覧手数料収入	千円	目標	22,500	22,500	25,947	12,160	12,160	企画展観覧料、施設使用料、特別観覧手数料の合計額
		実績	20,253	22,491	17,315		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆(仮称)国際工芸美術館工事開始のため企画展の開催回数が2023年度より1回減少することを想定して、展覧会観覧者数の目標を2023年度よりも少ない93,000人となりましたが、魅力的な展覧会を開催し、積極的に情報発信した結果、観覧者数は105,283人となり、目標を12,283人上回りました。◆観覧料、施設使用料、特別観覧手数料収入については、企画展の開催回数及び日数が減少したことによる観覧者数減少のため、2023年度と比べて5,176千円減少しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度	2023年度 A	2024年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	124,506	114,802	116,689	1,887	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	9,912	7,090	5,720	△ 1,370		保険料	0	0	0	0
	物件費	146,216	156,089	144,328	△ 11,761		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	105,864	108,283	107,831	△ 452		都支支出金	0	0	11,612	11,612
	維持補修費	3,345	5,102	3,882	△ 1,220		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	20,253	22,491	17,316	△ 5,175
	補助費等	3,445	3,954	3,165	△ 789		その他	11,696	13,711	9,020	△ 4,691
	減価償却費	56,285	56,285	55,856	△ 429		行政収入 小計(a)	31,949	36,202	37,948	1,746
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 318,591	△ 309,976	△ 313,763	△ 3,787
	賞与・退職手当引当金繰入額	16,743	9,946	27,791	17,845		金融収支差額 (d)	△ 190	△ 167	△ 143	24
	行政費用 小計 (b)	350,540	346,178	351,711	5,533		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 318,781	△ 310,143	△ 313,906	△ 3,763
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	0	10,133	0	△ 10,133
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	10,133	0	△ 10,133		当期収支差額 (e)+(h)	△ 318,781	△ 300,010	△ 313,906	△ 13,896

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費		補助費等	
決算額の 主な内訳	総合管理委託料	77,441千円	事業協力謝礼	801千円
	光熱水費	18,330千円	講師謝礼	831千円
	備品購入費	4,573千円 など	「ゆうゆう版画美術館まつり」負担金	750千円 など
主な 増減理由	屋外彫刻修繕完了により備品修繕費が10,321千円減少。版画制作機器購入により備品購入費が4,041千円増加。		企画展の開催回数減などにより事業協力謝礼が976千円減少。講師依頼数増加により講師謝礼が195千円増加。	

勘定科目	維持補修費		その他(行政収入)	
決算額の 主な内訳	給水ポンプ取替修繕	1,210千円	物品売払収入	5,954千円
	空調制御機器修繕	1,078千円	受託販売手数料	874千円
	給水ポンプ配管修繕	440千円 など	広告掲載料	265千円 など
主な 増減理由	緊急性の高い項目のみ実施したことから施設修繕料が1,808千円減少。		企画展の観覧者数減少により物品売払収入が174千円減少。芸術文化振興基金助成金の申請を見送ったことにより3,000千円減少。	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
国際版画美術館年間入館者数1人あたりコスト	人	2024	156,439	2,248	228	企画展の観覧者数減少のため、入館者1人当たりのコストは228円増加しました。
		2023	171,406	2,020	△ 61	
		2022	168,475	2,081	△ 644	
開館1日あたりコスト	日	2024	293	1,200,379	72,763	電気設備工事のための一時休館により開館日数が減少し、開館1日当たりのコストは72,763円増加しました。
		2023	307	1,127,616	△ 17,940	
		2022	306	1,145,556	△ 102,677	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2023年度末 A	2024年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		22,913	23,425	512				
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0			0	
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		12,967	12,967	0			0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		960,427	917,811	△ 42,616	賞与引当金		9,946	10,458	512			0
		土地		0	0	0	その他の流動負債		0	0	0			0
		建物(取得価額)		2,258,181	2,271,421	13,240	固定負債		161,228	157,477	△ 3,751			0
		建物減価償却累計額		△ 1,560,766	△ 1,616,622	△ 55,856	地方債		73,342	60,375	△ 12,967			0
		工作物(取得価額)		263,012	263,012	0	退職手当引当金		87,886	97,102	9,216			0
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債		0	0	0			0
	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計		184,141	180,902	△ 3,239			0	
	インフラ資産	有形固定資産		0	0	0	純資産		2,499,522	2,465,727	△ 33,795			0
		土地		0	0	0								
		工作物(取得価額)		0	0	0								
工作物減価償却累計額			0	0	0									
建設仮勘定			0	0	0									
	その他の固定資産		1,723,236	1,728,818	5,582	純資産の部合計		2,499,522	2,465,727	△ 33,795			0	
	資産の部合計		2,683,663	2,646,629	△ 37,034	負債及び純資産の部合計		2,683,663	2,646,629	△ 37,034			0	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	美術館 2,271,421千円	屋外彫刻4点 263,012千円	収蔵美術品 1,624,706千円 定額運用基金 100,000千円 版画制作機器 4,112千円
主な増減理由	設備機器更新により、13,240千円増加。	美術工芸品類は減価償却対象外資産。	収蔵美術品受贈により1,470千円増加。 版画制作機器購入により4,112千円増加。

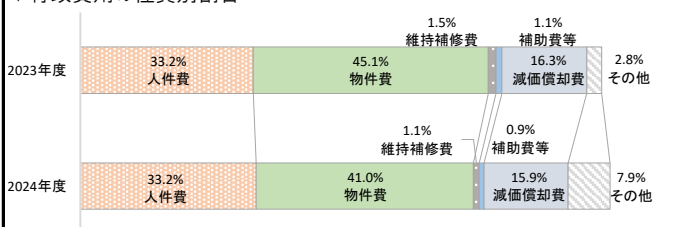
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	37,948	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	286,269	社会資本整備等投資活動支出	4,112	財務活動支出	12,967
行政サービス活動収支差額(a)	△ 248,321	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 4,112	財務活動収支差額(c)	△ 12,967
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 265,400
				一般財源充当調整額	265,400

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



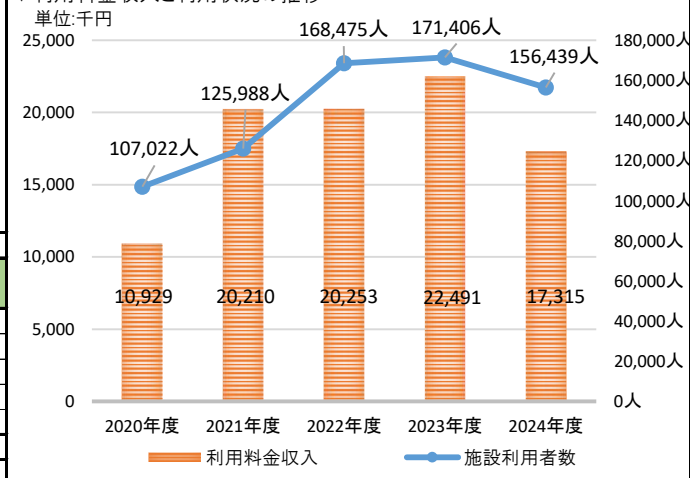
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
管理事務	5.9	0.1			0.2	6.2	5.3
展示事業	4.8	0.9		1.0	0.2	6.9	5.8
ハイビジョン事業						0.0	0.0
普及事業	2.3	0.1			1.3	3.7	4.0
2024年度 歳出目 合計	13.0	1.1	0.0	1.0	1.7	16.8	15.1
2023年度 歳出目 合計	11.0	1.0	0.0	2.2	0.9	15.1	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆展覧会の開催回数や開催日数の減少のため観覧者数の目標を2023年度よりも少ない93,000人としましたが、魅力的な展覧会を開催しSNSでの情報発信を2023年度の526回から577回に増やした結果、観覧者数は105,283人となり目標を12,283人(13.2%)上回りました。◆「幻想のフラスコ」展のアンケートでは約95%の方から「良かった」という評価をいただき、多くの方に芸術・文化をお楽しみいただくことができました。◆版画工房及びアトリエにて開催される版画講座や出張授業などを行う学校教育への協力事業には、2023年度と比べ69人(23.7%)上回る359人の方に参加いただきました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆SNSを積極的に活用し、幅広く国際版画美術館の魅力発信を行いました。展覧会開催回数の減少のため観覧料収入は2023年度の15,176千円から10,307千円となり、4,869千円(32.0%)減少しました。◆10月からキャッシュレス決済を開始したため導入や運用にかかる費用が新規に101千円発生しましたが、ミュージアムショップでの販売商品のうち展覧会の図録を除く商品の売り上げは2023年度の1,498千円から1,632千円となり、134千円(8.9%)増加しました。◆緊急性の高い修繕のみ実施したことから、施設修繕料が2023年度の5,102千円から3,294千円となり、1,808千円(35.4%)減少しました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆より多くの方々に芸術に親しみを持ってもらうため、収蔵品を活用した魅力ある展覧会を実施するとともに、様々な方法でその魅力について情報発信していく必要があります。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”推進事業に基づき、より多くの方々に芸術に親しみを持ってもらえる取り組みをすることが必要です。◆ミュージアムショップ利用者の拡大と利便性向上のために、商品の販売方法を拡充する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆魅力的な展覧会やイベントの開催を通じて美術を楽しむ人を増やします。◆SNSによる情報発信を通じて、文化・芸術都市としての町田市のブランドイメージの向上を図ります。◆国際版画美術館、博物館、美術館整備担当が美術館課として一つになったことを活かし、事務の効率化を図ります。	◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”推進事業を具現化し、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆計画的に改修工事を行い老朽化した施設の改善を図ります。◆収蔵品の効率的な管理活用のため、データベースの構築を図ります。

